

早稲田大学人間科学部

講義要項



1 9 9 2

1992年度 早稲田大学大学暦

区 分			期 日		
入 学 式		学 部	1992年 4 月 1 日 (水)		
		大学院	4 月 2 日 (木)		
前 期	授業開始	学 部	4 月 2 日 (木)		十 六 週
		大学院	4 月 3 日 (金)		
	授 業 終 了		7 月21日 (火)		
	夏季休業	自	7 月22日 (水)		
		至	9 月15日 (火)		
後 期	授 業 開 始		9 月16日 (水)		十 七 週
	創 立 記 念 日		10月21日 (水)		
	冬季休業	自	12月15日 (火)		
		至	1993年 1 月 7 日 (木)		
	授 業 終 了		2 月 6 日 (土)		
	春季休業	自	2 月 7 日 (日)		
		至	3 月31日 (水)		
授 業 期 間			33 週		
学部卒業式，専門学校 卒業式および大学院学 位授与式			3 月25日 (木)		

目 次

講 義 内 容

一 般 教 育 科 目	教 養 演 習	1
	人 文 科 学 系	2
	社 会 科 学 系	4
	自 然 科 学 系	6
外 国 語 科 目	(随 意 科 目)	9
保 健 体 育 科 目		10
基 礎 教 育 科 目		11
専 門 教 育 科 目 (各学科共通 必修)		13
専 門 教 育 科 目	人 間 基 礎 科 学 科	15
	人 間 健 康 科 学 科	30
	ス ポ ー ツ 科 学 科	44
専 門 教 育 科 目 (各学科共通 選択)		77
寄 附 講 座	(随 意 科 目)	84
役 付 教 職 員 一 覧		87
ク ラ ス 担 任 者 一 覧		88
教 員 一 覧		90
建 物 ・ 号 館 案 内		99
構 内 案 内 図		101

一 般 教 育 科 目

教 養 演 習 (必修) 4 単位

教養演習は、大学における勉学への導入的役割を果すものと期待されており、演習参加者が勉学上の関心を主体的に充足する場であると同時に、クラスとして機能する、1年次に履習する3学科共通の科目である。

クラスは約30名編成20クラスで、3学科混成である。それぞれのクラスは入学手続後決定し、掲示する。

クラス	担 当 者	専攻分野
1	重 原 淳 郎	ドイツ文学
2	堀 田 郷 弘	フランス文学
3	池 岡 義 孝	家族社会学
4	春 木 豊	行動学
5	矢 野 敬 生	社会人類学
6	鈴 木 晶 夫	行動学
7	吉 村 作 治	考古学
8	菅 野 純	カウンセリング
9	店 田 廣 文	都市社会学
10	佐 古 順 彦	環境心理学
11	門 前 進	臨床心理学
12	野 嶋 栄一郎	教育工学
13	宮 崎 正 己	体育学
14	梅 澤 宣 雄	スポーツ経営学
15	太 田 富貴雄	栄養学
16	児 玉 昌 久	スポーツ心理学
17	鈴 木 秀 次	バイオメカニクス
18	町 田 和 彦	環境保健学
19	村 岡 功	運動生理学
20	中 村 好 男	運動生理学

(人 文 科 学 系)

教 育 学 4単位

林 幹 夫

かつてない勢いで増大する教育への期待は、教育の量的拡大を推進するとともに、教育の質的低下を併進行させる「過剰教育の時代」を招来した。今、この教育の氾濫の中でこそあらためて「教育とは何か」を問うことの必要性が痛感される。また教育はだれもが経験するごく身近なできごとであるから、人間形成行為としての教育およびそれに関わる諸条件を客観的＝科学的に解明し理論化しようとする学問である教育学も、われわれの日常と無縁のもの、実践行為からかけ離れたものであってはならないであろう。

こうした認識にたって、ここではわが国における教育現象を歴史的・社会的に、あるいは諸外国における現象との対比において見据えながら、また現代教育の問題状況を解明・打開する方策を探る契機として教育思想史上のすぐれた著作をとり上げながら、「教育」について哲学的・思想的・理論的な考察を行う。

テキストについては講義のはじめに、参考文献等については適時、それぞれ指示する。

宗 教 学 4単位

安 中 隆 徳

教団内部での伝統的な宗教理解が、神学（仏教では宗乗学）であった。これに対して宗教学は、諸宗教に関心を持ち、種々の宗教性の構造と可能性を理解しようとする。近代・現代に至るにつれて、異なった文化・宗教を理解する重要性が意識されてきて、その新たなニーズが、宗教学という学問を生みだしたのである。

確かに現代世界は、西欧近代の合理主義を、普遍的に導入している。しかしそれ故にこそ、諸文化の根底にある、宗教がはぐくんだ主体に関わる思惟（人間観・世界観）への理解が、いよいよ必要になってきているのではないだろうか。

人間の諸行動の根底にある宗教の営みに、われわれは宗教学によって照明を当ててみたい。

哲 学 4単位

伴 一 憲

田畑を耕したり、ボールを蹴ったり投げたり、坐禅したりする、人間の何でもない行孝行動の中に、枢きえているということの最も根本的な問題が蔵されている。西田哲学で知られる西田幾多郎は「我々の最も平凡な日常生活が何であるかを最も深くつかむことによって最も深い哲学が生れるものである。」と言っている。そこで我々も我々の身近な生活からさまざまな問題を取り出して、それを哲学の歴史の上で問題にして

みたい。その問題が哲学の領域ではどのように問われてきたか、またどのように問うことが哲学的問いになるのかを、偉大な哲学者たちの哲学を通して学習しながら、哲学とはどのような学問であるかを、身近なところで感じ取れるようにしていきたいと思う。

教科書は特に使用しないが、参考書として次の二冊を挙げておく。

『哲学入門以前』川原栄峰著南窓社

『闘争の倫理』大西酈之裕著二玄社

倫 理 学 4単位

大 崎 博

科学はものごとがどのようにして (how) そうなっているかを問うことはできても、何のために (why) を問題にすることはしないと言われる。そもそも人間が人びとの間で生れ、死ぬこと、生命、自然、社会の意味など解っているつもりで、かならずしも明らかでないことが多い。この講義では、そうした世界と人間の根本にかかわる問題ならびに社会における人間関係の問題を、主としてフランスでの論議を軸にして考えていくことにしたい。

文 学 4単位

菊 地 弘

日本近代の作品を素材として、文学のさまざまな問題を考察したい。本年は二葉亭四迷、樋口一葉、島崎藤村、夏目漱石、森鷗外、有島武郎、谷崎潤一郎、芥川龍之介、梶井基次郎などの作品を具体的に分析しながら、表現世界と現実との関係性、当代、後代の作品との関連などにもふれてみたい。テキストはそのつど指示するので用意すること。

比 較 文 明 論 4単位

吉 村 作 治

文明を論ずる時まず問題になるのは文化との関係である。本講座では文明の中でも古代文明を論ずることにより、文化との対比を行いたい。古代文明は中国を中心とした東アジアの文明とエジプト、メソポタミア、ペルシア、ギリシア、ローマといった西アジアの文明がユーラシア大陸の両端に存在し、古代社会を形成していた。本年はこの二大文明圏の交流を中心に、その周辺に及ぼした影響を考えてみたい。文明の伝播は文物、遺構等目で見ないと理解しづらい点も多いので、映像を使い講義を進めていく予定である。又西アジア文明については私の専門がエジプト文明にあるため、エジプトが中心となり、エジプトに於ける発掘等も講義の中で触れる。

映 像 論 4単位

岩 本 憲 児

写真が誕生した19世紀前半から、コンピュータ・グラフィックスの現代まで、映像メディアの変遷をながめながら、映像の特質を考えてみたい。写真・映画・テレビ・

CG等、映像メディアが私たちにもたらしたものは何か？映像は20世紀の芸術や伝達のあり方をどのように変化させたのか？それを私たちの視点や思考をどのように新しくしたのか？講義の中心になるのは、映像メディアと既成芸術との関係、映画理論史上の主要な論点等であるが、視覚文化や複製文化、コミュニケーションやドキュメンタリー、映像とプロパガンダの問題等、社会的な広がりも含めたい。

教科書は使わないが、スライド・フィルム・ビデオ・レーザーディスク等、映像資料をできるだけたくさん使う予定。参考書は、『映像学原論』（ミネルヴァ書房）、『映画の教科書』（フィルムアート社）

(社 会 科 学 系)

経 済 学 4 単位

古 賀 勝次郎

経済のグローバル化ということが頻りにいわれている。日本は今やアメリカに次ぐ経済大国として、世界経済における責任ある行動が求められている。本講義では、グローバル化する世界経済の分析と、それへの日本の対応を中心テーマとしながら次の順序で講義をすすめる。

1. 経済学とは何か。
2. 経済学の成立と展開
3. 現代社会における経済の仕組み
4. 日本経済の現状と問題点
5. アメリカ経済と日米経済摩擦
6. EC（欧州共同体）の歴史と展望
7. アジア経済と日本
8. 社会主義圏および第三世界の経済分析
9. 国際金融、特に国際通貨制度
10. 世界の中の日本経済

《主な参考文献》

- McCall, B., The World of Economics（英潮社新社）
- 拙著『ハイエクと新自由主義』（行人社）
- 拙著『東西思想の比較』（成文堂）

法 学（憲法を含む） 4 単位

世取山 洋 介

「法学」は、国家権力の発動（または非発動）に関する適切な規範の発見を目的とする学問である。「法学」を学ぶことの意義を、法律に関する知識は誰にでも必要であるという、その実用性に求めることもできるが、この講義では、体系的思考に基づい

て問題を発見し、その問題に対して一定の価値判断を下す能力を身につけることに、その意義を求めることにする。

前期では、「法」にかかわる基本的問題を取り扱い、①「権利」「法律問題」「判例」といった基本的概念、②現行法の基本的な仕組み、について検討する。後期では、「憲法」を取り扱い、①憲法の基本的観念、②日本国憲法の展開、③国民主権と国家機構、④基本的人権とその保障、について検討する。[教科書]：渡辺洋三『法律学への旅立ち』（岩波書店）、芦部信喜『国家と法Ⅰ・憲法』（放送大学教育振興会）、『ポケット六法・平成4年版』（有斐閣）

日本文化史 4単位

谷川章雄

日本人にとって日本文化を知ることには自己を認識する上で不可欠な作業である。本年度は日本文化史のなかの「生と死」の問題をとりあげる。生と死は人間にとっての永遠の不条理であろうが、同時に文化の根源的な観念とかわっている。つまり、生と死は生まれて死んでいく本人の問題だけにとどまらず、誕生する子供を迎え死者を送る人々の観念がそこに投影されているのである。

こうした観点から日本文化史における生と死の観念をたどっていくのが本講義の目的である。

社会変動論 4単位

嵯峨座 晴 夫

社会変動とは、一般的にいて、社会の活動水準あるいは社会構造が変化することを意味している。このような変化を対象として、その変動パターン、原因、帰結などについて、社会学を中心として関連諸科学においていろいろと研究が進められてきた。例えば、社会進化論、発展段階論、近代化論などがあげられる。ここでは、まず第一に、これらの社会変動の基礎理論について概説する。

第二に、現代の主要潮流の一つである近代化について、日本社会を例にとりながら具体的な考察を試みる。さらに、この近代化がいわゆる第三世界にも波及する可能性があるかどうかについても検討する。

第三に、望ましい社会変動を意図的に引き起こすことを目的とした社会計画あるいは社会開発の意義と問題点についても論述する。

テキストとして浜口・嵯峨座編『社会学講義』早大出版部を使用する。

ヨーロッパ文化概論 4単位

竹山 博 英

一口にヨーロッパと言っても、北ヨーロッパと南ヨーロッパでは、その風土、文化が大きく違っている。本講義では、南ヨーロッパを代表する国の一つであるイタリアを取り上げる。イタリアは紀元前五世紀ごろから地中海世界の中心国となり、ローマ帝国期とルネサンス期にヨーロッパ文化の中心地として栄え、今日に至っている。そ

のイタリアの約二千五百年に及ぶ文化史を、考古学、美術、建築学、文学、民俗学など、様々な学術分野の成果を踏まえてたどってみたい。授業ではできる限り多くのスライドを用いる予定である。

教 育 法 4単位

今 橋 盛 勝

「教育と人権と法」のテーマで行なう。学校教育は子どもが「適切に保護され、人間として扱われながら学習、発達する場」という基本的視点から、いじめ、体罰、校則・髪型、内申書、学校事故、部活問題を検討する。

実態、問題点を紹介しながら、法的論点・判決を見ていきたい。法解釈学と法社会学の2つの方法、調査の方法についても検討したい。

国連の「子どもの権利条約」の内容とそれが日本の教育問題・学校、紛争、裁判に及ぼす影響についても考えていきたい。

後期は、ある教師の戦後40年の教育の歩みを書いた本を下に、教育と人権・法、学校と地域、教育政策と学校・教師について考えたい。

受講者の体験、見解を講義にしたい。

レポートは2回要請する。

〔教科書〕：

〔参考書〕：今橋『いじめ・体罰と父母の教育権』（岩波ブックレット）、今橋他『内申書を考える』（日本評論社）

文 化 人 類 学 4単位

（前期）寒 川 恒 夫

（後期）谷 川 章 雄

世界の民族と文化について研究する文化人類学は一世紀余におよぶ歴史をもっている。本年度前期では最初、研究史をあつかう。つまり、文化人類学が展開してきた諸理論モデルを反省することで、この学問領域の広がりを確認する。次に、地域を東アジア・東南アジアに限定して、そこに展開する民族文化について論じる。（寒川）

後期は主として日本の民俗文化をとり上げる。まず、日本の民俗文化研究の様々な方向性を概観する。次にいくつかの地域に特徴的な民俗をとり上げ、それらを比較検討しながら、日本の民俗文化の多面性、重層性を明らかにしてゆきたい。（谷川）

（自 然 科 学 系）

物 理 学 4単位

千 葉 明 夫

前期では、力学の問題を中心に講義を行う。ニュートンは我々の身近にある運動

と、大宇宙で起っている運動と同じ簡単な基本法則にもとづいていることを看破し、運動の法則を発見した。我々は彼の運動の法則の確立のなかに近代科学的思考法の原点を見いだすことができる。講義では力学的エネルギーについても述べる。

後期では熱力学をあつかう。人類は原始の時代より火を熱源として食物を焼いたり煮たり、また体や水等を暖めるのに用いてきた。言い換えれば、古代より人類はいろいろな熱現象を利用して繁栄してきた。熱力学は熱現象を現象論的な立場で探究する科学で、物質内部のエネルギー状態の変化を知るには温度、熱、内部エネルギー、エントロピーなどの概念を確立する必要があった。熱力学を学ぶことにより、熱と温度の区別やエントロピーの概念が明確になり、熱力学の法則のもつ普遍性を知ることができる。

化 学 4単位

櫻 井 英 博

人間と化学の関わり合いを中心に化学の基礎から話をする。前期は、化学の法則(原子説)、エネルギーの化学(熱力学と生体エネルギー)、環境の化学について紹介する。後期は、身のまわりの衣・食・住に関わる有機化合物を取上げ、それらの化学的性質を概説する。

〔教科書〕：『新化学序説』(第2版)。化学同人教科書研究会編(化学同人)。

生 態 系 科 学 (本年度休講) 4単位

大 島 康 行

地球は、環境と生物が相互に作用し、一つの系をなしている。この系、すなわち生態系について、構造と機能の両面から基本的な問題を概説する。さらに地域生態系の特徴、生態系の発展と維持の機構について理解していく。後半は生態系と人間生存にかかわる諸問題のうち、食糧、資源、環境問題等を生態系の視点から順次述べ理解を深めたいと考えている。

講義はプリント、スライド、ビデオ等を随時使用しておこなう。参考文献、図書は講義の際、必要に応じ紹介する予定である。教科書として使用するものはない。

基 礎 数 学 4単位

近 藤 庄 一

高校で学んだ数学を基礎に、連立方程式や円周率など具体的な例から線型代数や微積分の概念を説明する。教材はプリントとして配布する予定。

生 命 科 学 論 4単位

中 村 桂 子

生命科学の特徴は、生物科学の基礎研究を進めて、人間の生物としての側面を解明していく一方、科学と社会の接点を考えていくことである。まず、現代生物学の主流を成す分子生物学で人間理解につながる知見がどこまで得られているかをまとめる。また、それ以外の分野でも、今どこまで人間の理解が進んでいるかをできるだけ広範

な視野で捉える。そのうえで、生物学による人間理解と社会における人間観の関係を考えていきたい。

行 動 学 4単位

春 木 豊

下等動物から人間までを「動物」、つまり「動くもの」という。このように行動は下等動物から人間までの全ての生命体のもつ共通の性質であり、特に複雑な内容をもつ人間にとっては、その底に流れていて、人間を支えているルーツの深い現象であるといえる。

日常生活で、人間は一時といえども行動していないことはないのであるが、ほとんど意識することなしに過している。行動学は人間の行動に焦点を当て、そこから人間の姿をながめてみようとするものである。

行動学はまだ定った体系をなしていないが、本講では、行動のうち体動（微細な行動）と行為に焦点をしぼり、その生態とメカニズムについて講ずる。

なお、この講義は、行動学であるが、その内容は人間科学を考えるためのものであるように進めてゆく。

人 類 学（自然） 4単位

保 志 宏

ヒトが生物の一種であることは今日疑う者もないが、他方で、ヒトにはヒト独特の特徴もあるはずである。その特徴は、解剖学、生理学、生化学、遺伝学、生態学など、多くの角度から解明されてきた。人類学は、これらのヒト独特の特徴が、どのような進化の過程を経て獲得されてきたのか、何故このような特徴を持つに至ったのか、を明らかにしようとする。

前期は化石骨を手掛りとする進化過程の探究を主に紹介することとし、後期は遺伝学・生態学の一部について触れたいと思っている。

受講者は下記の書を購入し、教室へ持参すること。

〔教科書〕：保志宏『人類学図表集』（てらべいあ）

外国語科目

上級英語

ロバート・グレイ

Course Title: Advanced English

Time: 90 minutes per week

This course adopts a seminar-style approach to topics relating to General Psychology, Sociology, and inter-personal relationships.

Guided preparation for each class is required, along with active participation.

This is a full-year elective course intended to provide advanced speakers of English with an opportunity to utilize their language skills.

上級独語

重原 淳 郎

フランツィスカ・エームケの講演「日本における個人と社会」を読みます。

Franziska Ehmcke: Individuum und Gesellschaft in Japan

上級仏語

堀 田 郷 弘

仏語 I と II の単位習得者あるいはそれと同時の知識を備えた者を対象にした上級仏語の講義です。具体的な講義内容は、時事的なフランス語の講読、フランス語による自己表現などを訓練しますが、少人数の場合は学生各自のめざす仏語修得の目的に応じた指導もできればと考えています。

参考として昨年度の内容のおよそを掲げておきます。東郷雄二編『科学フランス語への招待』の抜粋、総合週刊誌 Le Nouvel Observateur や Le Point の日本やソ連政変の記事などの講読、各自が決めたテーマ（自己紹介、旅行など）による仏作文、フランスのテレビ放送 Antenne2 のニュースのビデオ（原文と邦訳のテキスト付）による聞き取り訓練のための自習用ビデオの配布など。

保健体育科目講義

スポーツ文化論 2単位

濱 野 吉 生

近代スポーツの発展過程を明らかにしつつ、まず、その本質について考えてみたい。さらに文化としてのスポーツをめぐる、現在どのような問題があり、どうあらねばならないかを、広く国民のためのスポーツという観点から述べていきたいと思う。

行動衛生論 2単位

児 玉 昌 久

様々なストレスに満ちた現代社会で、心身の抵抗力を高め、よりよく適応して健康な生活を維持して行くために、人間の行動のしくみを理解し、自分の行動特徴を知ることが非常に有益である。

人間の行動は精神活動と身体活動の両側面をもつが、それぞれが単独に存在するものではなく、統合された一元的なものである。本講でも心理学、生理学を統合した精神生理学的な立場から問題を探り上げて行くが、異常心理学、精神病理学など「衛生」の背景をなす問題や、人間の行動や認知の機能に関わる心理学的問題、環境心理学や社会心理学など「行動」を理解する上で必要になる問題にも触れていく。

教科書は使わないが、講義内容を理解するための参考書としては、村上仁著「異常心理学」(岩波全書)と、ラザルス講演を林峻一郎が編集・翻訳した「ストレスとコーピング」(星和書店)が役にたつし、心理学系の進路を考えているものは、「行動学入門」(Hebb 著、白井訳、紀伊国屋書店)に目を通しておくことと将来を含めて役にたつであろう。

基礎教育科目

人間の諸問題（総合講座） 4単位

浅井 邦二
濱口 晴彦

人間とは何かという問いかけは、古今たえることなく問われつづけられてきた問いであり、この問いかけに最終的に答えることのできたものはない。しかし、人間は永遠にとらえどころのない謎そのものなのだろうか。謎の多い存在ではあるが、謎そのものではないと思う。

人間の諸問題は生と死、男と女、人間と環境、心と体など、人間をめぐるさまざまな問題をふくんでいるけれども、これらは人間とは何かという大状況の人間ではなく、人間のあり様を時間と空間という2つの軸の中に人間をおいて、もっと身近にひきよせ、多角的に考察する手がかりを与えている。今年度は人間の生と死という、人間の発端と終点をつなぐ過程をふくめ総合的にアプローチする。今年度は「生と死」をテーマにする。詳しい内容は講義登録の際提示する。

環境論（自然・人間）（総合講座） 4単位

飯野 徹雄
佐古 順彦

人間と環境のかかわりあいを総合的に考えていき、人間にとっての環境のあり方を再考し、問題意識をもってもらうことを意図している。そのため人間をとりまく自然環境と人間活動による環境の変化とその影響に関する諸問題（自然災害も含む）、人工的・社会的環境と人間の行動といった諸問題を取りあげる。そして現在あるいは近い将来人間の生存にかかわる諸問題を共に考えていきたい。5～6名の教員が分担しておこなう予定である。

バイオエシックス 4単位

木村 利人
小室 輝昌
青木 清

近年生命への関心が高まっている。それは①自然科学の方向転換により自然科学の最前線が生命の探究に向っていること。②生命に関する解明が進むのと並行して生命の操作の技術化が急展開していること。③生命科学の進歩から自然科学的生命観の出現と、操作技術の展開により生命をどうとらえていくか、ということにある。これらについて、生命科学の立場から述べる。（青木）

現代の生物・医科学技術の急激な進歩と発展に対応して展開されてきた「バイオエ

シックス」の基本原理とその体系を、基本的人権及び公共政策の形成に焦点を合わせつつ講義する。(木村)

それぞれの人が体験する病気、死、戦争などを通して、生命の意味についての問題を考えてみたい。(小室)

情 報 処 理 (コンピュータ基礎・実習) 4 単位 池岡義孝 石田 敏郎 加藤 久
根建金男 野嶋栄一郎 中村好男

教育内容の概略は次の通りである。

1. タイプ練習 2. 図書館情報検索システム
3. 日本語ワープロ 4. コンピュータ通信 (bitnet)
5. システム概説 6. プログラミング入門 (フローチャート)
7. 日本語 DOS 8. BASIC の文法及びプログラミング
9. アプリケーションの利用

上記のような教育実践のもとで次のような教育目標の実現を図る。

1. 身近な教育環境として存在するコンピュータに直に触れ、コンピュータとの対話能力とコンピュータに対する興味関心を育てる。
2. プログラミングという作業を通し、問題解決一般に通じるアルゴリズムを発見し、組み立てる能力を育てる。

〔テキスト〕: 逐次自作テキストを配布する。

人間の構造と機能 4 単位

木 村 一 郎
野 呂 影 勇

ヒトでみられる様々な生理現象について、分子から個体に至るいろいろなレベルでの構造的理解をもとに、それらのメカニズムについて概論する。主として分子～組織レベルの内容の講義を予定している。人間の構造と機能について総合的に理解するため十および生物としてのヒトを理解するために必要な基礎生物学的な学習を目的としている。(木村)

基礎、健康、スポーツの各学科の学生として、人間の構造と機能について必要な知識を学ぶ。前期においては、臓器レベルまでである。人間と外界の関係の基礎的知識としての観点から、構造と機能について学ぶ。以下の様な項目について講義を行われる。人体の構成の要素・感覚・中枢神経系骨格・筋(疾患との関係を含む)筋的負荷と呼吸循環機能・精神的負荷の自律神経機能、毎回配布資料を基にして講義が行われる。(野呂)

〔テキスト〕: 別途通知する。

〔参考書〕: 『細胞の分子生物学』(B. Alberts 他著, 中村・松原監訳, 教育社)

『人体生理学(第2版)』(A.C. Guyton 著, 内菌・入来監訳, 広川書店)

専門教育科目 (各学科共通 必修)

人間発達の心理学 2単位

青 柳 肇

人間の出発点は受精の瞬間である。人の一生は受精から出生（母胎からの離脱）を経て、新生児、乳児、幼児、児童、青年、成人、老年を通過し、死に至って終了する。本講では、各時期における心理的・行動的特徴について触れるが、特に人間関係（主として家族）とのかかわりを中心に考察したい。

人間発達の社会学 2単位

濱 口 晴 彦

人間発達の社会的側面を社会学の主題と方法、主要概念、それらの応用としての課題として講述する。

テキストは、浜口晴彦・嵯峨座晴夫編著『社会学講義』早大出版部を使い、次の順序で展開する予定。

1. 社会学とはどのような学問か
2. 人間科学と社会学のかかわり
3. 社会学の基礎理論
4. 社会集団
5. 家族
6. 都市と農村
7. 情報化・コミュニケーション・社会意識
8. 社会変動
9. 人間発達と社会生活
10. 生活の質・高齢化・文化変動
11. 映画「結婚」観賞
12. 人権の思想化と差別問題

人間発達の生命科学 2単位

木 村 一 郎

ヒトの一生における生殖、発生、成長、成熟、老化、死などの問題の理解の一助となるようなものとするを目的とする。

内容としては広義の動物発生生物学を基礎とし、組織や器官の形態形成などを扱いながら生命秩序の構築の基礎となる細胞の挙動について、“細胞社会学”的観点から考えてみたい。また、最近の生物工学や生殖医療等の発展の中で発生生物学も大きくそ

の研究方法において変貌を遂げつつあるが、発生工学ともいべき分野の研究方法やその成果についても解説し、バイオ時代の基礎生物学の理解のための、あるいは生命倫理を考えるための生命科学的基礎知識の提供、ということも意図してみたい。

人間発達のスポーツ科学 2単位

永 田 晟

人間の発育発達を生涯の生理的成長や加齢現象として捉え、それにスポーツがいかに働きかけ、いかなる影響をもつのかを講義する。そのためには、人間発達の態様を科学的に分析し、加齢と人間機能の関係を明確にしなければならない。さらにスポーツを科学的に分析し、人間とスポーツの相互関連を人間発達上から考察する必要がある。さらにスポーツの効果を客観量として提示し、人間発達上に占めるスポーツの意義を明確にする。そして人間発達におけるスポーツの役割と位置づけを論証し、万人のためのスポーツとそのスポーツ権を確立する。

これらの内容を主に生理学、心理学、解剖学、社会学、物理学、人類学、老人病理学の立場で詳講し、*The biology of aging and sports*”を中心に *Gerontology*”の意味を理解させる。

〔教科書〕：『加齢のスポーツ科学』（ぎょうせい）

人間発達の行動学 2単位

春 木 豊

行動は生命、精神、社会とともに、人間を考える上での重要な側面である。他の側面と同様に行動は発達する。

行動は日常生活の中でさまざまに現象しているが、本講では、人間関係行動を取り上げ人間発達にともなって、この行動がどのような様相を示すかを考察したい。発達とともに、人間関係行動はバラエティーを増すが、親子関係、兄弟関係、仲間関係、夫婦関係、職場関係について、概観し、人間関係行動の発達の様相とその成熟について考えたい。

専門教育科目 (人間基礎科学科 必修)

生物学概論 2単位

吉 岡 亨
中 村 桂 子

生物学は生命現象を理解するための最も基本的な学問であって、1940年以降画期的に進歩したため全く新しい学問としても捉え直すことができる。それまでの生物学はどちらかというと種の間の違いを記述することにその力点がおかれていた。しかし現在の生物学はそれとは逆に種同士の同一性がどこまで成り立つかを追究する学問であると認識されるようになった。その理由は遺伝子の正体が明らかになりDNAからタンパク質、さらに細胞機能、そして個体の高次機能に到るまでを一環して「分子」の言葉で記述することが可能になったからである。そこでこの講義においては分子生物学からスタートして細胞生物学、そして脳の高次機能に到る生命の階層構造をシステムティックに分かり易く解説する予定である。

尚、生物学に関する予備知識は必要としない。

比較形態学 2単位 (92年度まで開講)

山 内 兄 人

哺乳動物はそれぞれ特有の生活があり行動パターンをもつ。その行動は中枢神経系（脳-脊髄）で制御されている。中枢神経系の構造は基本的にはどの動物でも同じであるが、行動様式の違いなどで良く発達している部分と、退化的な部分がみられる。いろいろな動物（特にヒトとラット）の神経系の構造と機能を比較し考えていきたい。

行動学概論 2単位

春 木 豊

行動は、人間の生命、精神、及び社会性ととともに、人間を考える上での重要な側面である。行動なしには、生命の維持、精神の実現、人間関係の活性化は生じ得ない。

行動学はまだ定った体系をなしているわけではないが、本講では、特に行為の理論に焦点をあてて、行為のコントロールについて考学する。

自然人類学 2単位 (91年度生からは選択科目となる)

乗 越 皓 司

本講義は、自然人類学の一領域である霊長類学の立場から、人間の社会や行動の起源を、次の3項目について考察する。まず、人間の家族社会を考えるため、ニホンザルや類人猿などの霊長類の生態および社会構造について述べる。次に、人類進化に重要な役割をはたした道具行動の問題を下等動物やチンパンジーなどから述べ、人類進化の特徴を考える。最後に、動物と比較して人間の特質である言語に関連して、動物

のコミュニケーションと類人猿の“言語”実験について述べる。なお授業では、アフリカや東南アジアでの動物調査の経験を加えるとともに、動物行動の理解を助けるために16ミリやビデオなどの映像もできるだけ利用したい。

心理学概論 2単位

青 柳 肇

心理学とは何かについて、その成立の歴史と方法論について学んだ後、知覚、学習、パーソナリティなどの問題に触れる。一般に思われている心理学に対する誤解を改める方向に進めていく。

社会学概論 2単位

柿 崎 京 一

社会学の研究対象は、社会生活を営んでいる、いわば「社会の中の人間」である。すなわち多くの人びとと多面的に関係をもって行動している生活主体としての人間ということである。本講義では、この人間の社会行動を基軸として、社会的相互作用・社会関係、社会的役割と地位、社会集合と組織および社会規範と社会的エントロピーなど研究の主要な分野における社会学の理論的成果を解説し、社会の中の人間について考えてみたい。

テキスト：浜口・嵯峨座編「社会学講義」（早大出版）

社会生命科学 2単位

中 村 桂 子

生命科学は、生物科学の基礎研究を進め、人間の生物としての側面を解明していく一方、科学と社会の接点を考えることを特徴としている。具体的には技術を通しての社会への影響、科学活動の社会の中での位置づけ、生物科学が明らかにしつつある事実と自然観・生命観の関係という三点が課題となる。急速な生物科学の進歩に対応して、その社会との接点にも、次々と新しい課題が出てくる。それらをできるだけ適確に捉え、整理する。

統計学概論 2単位

嵯峨座 晴 夫

全体は、統計調査論と統計解析論からなる。もちろん、統計データの解析手法の解説が中心であるが、講義の前段では、統計データの信頼性の問題について考察する。統計データの利用にあたっては、まずその作成段階における問題点を明らかにし、統計の評価を行うことが絶対に必要であるからである。

演 習 I 4単位（92年度より演習の内容及び担当者が変更になる。）

青柳 肇，浅井邦二，飯野徹雄，池岡義孝，柿崎京一，木村一郎，小室輝昌，嵯峨座晴夫，佐々木正人，鈴木晶夫，中村桂子，根建金男，浜口晴彦，春木豊，矢野敬生，山内兄人，吉岡 亨

「演習1」は、人間理解の基礎となる生物学、心理行動学及び社会学の基本的実験及び調査の技術や思考方法の修得を目的としている。学生は3班に別れ、各学系につき7回、計21回の基礎的実習を行なう。詳細はオリエンテーションの際に説明する。

演 習 II (人口問題) 4単位

嵯峨座 晴 夫

人口変動が人々の社会生活との関連においてもたらす諸問題、つまり人口問題は今日の世界的関心事である。この人口問題は、食糧問題、雇用問題、人口増加問題など古くして新しいいわば伝統的問題から新たに最近立ち現れてきた過密・過疎、人口の都市集中、高齢化、環境破壊、外国人労働者、難民、中絶、出生率低下、人口減少などの諸問題まで広い範囲にわたっている。演習の前半では、これらの諸問題の意味と関連づけを概観する。後半では、参加者各人がテーマを設定し、具体的な事例をあげて報告を行う。

演 習 II (村落社会の構造と変動) 4単位

柿 崎 京 一

人間にとって基礎的な社会関係・社会集団の一つである村落(農山漁村)社会を対象とし、村落を構成する単位・要素、さらにこの諸単位・要素間の諸社会関係をとらえ、それらが一定の空間のもとで、全体として一定の秩序にもとづいて統合している実態、すなわち村落の社会構造と、その変動過程についての理解を深めることを課題とする。その場合、村落社会の構成単位・要素、諸単位・要素間の諸関係には、家族(家)や同族・親類・近隣・各種年齢集団、さらには政治・経済・宗教・教育関係など多様な展開を通例としている。

本演習では、以上の課題に即して事例研究(モノグラフ)をとりあげて紹介(講義)すると同時に、基本的文献を選定し、輪読・討論を通じて理解を深めたい。使用する文献は本授業のはじめに指示する。

演 習 II (家族とライフコースの社会学) 4単位

池 岡 義 孝

近年の家族研究は、社会学だけでなく、心理学、歴史学、人口学、人類学、女性学など多様なアプローチの競合によって活発化してきた。そこで本演習では、社会学的アプローチを中心にしながら、これら多様なアプローチの成果を検討し、またそのデータ収集とデータ分析の技法についても学びたい。とりわけ、最新のアプローチのひとつであるライフコース・アプローチについては、詳しく検討を加えることを予定している。

演 習 II (細胞の構造と機能) 4単位

木 村 一 郎

細胞の構造と機能に関する基礎生物学を、文献の講読・討論を通じて細胞生物学的・生理学的・生化学的観点から学習する。さらに、バイオテクノロジーを含む現代生物

学における細胞生物学の現況についても具体的研究例を文献講読等を通じて学習し、併せて科学研究およびその発表などのあり方について学ぶ。

演 習 II (生物の遺伝機構) 4単位 飯 野 徹 雄

生物の遺伝機構の解明に大きく貢献した研究業績にかかわる論文を設定し、輪読討論方式により、それらの学術上の意義を理解せしめると共に、科学研究における計画の立案、遂行、発表、また、それに対する評価はいかにあるべきかを会得せしめる。

演 習 II (認知の発生理論) 4単位 佐々木 正 人

認知心理学、認知発達研究、認知科学の最近の成果を講読し、1992年度は特にエコロジカルな認識研究の理解を柱にする。形式的・抽象的と考えられがちな認識の働きを、具体的な日常生活と結びつける観点について議論したい。フィールドと実験を有機的に関連づける人間研究の方向についても議論し、実践したい。

演 習 II (セルフコントロールの理論) 4単位 根 建 金 男

セルフコントロールの方法のうち、行動論的セルフコントロール、バイオフィードバック、自律訓練法、漸進的弛緩法など、主要なものについて説明する。なお、セルフコントロールの方法を体験的に理解できるように、ビデオによる学習や、技法と心理テストの実習もできるだけ多く行いたい。

教科書は使用しない。参考書はその都度指示する。

演 習 II (ノンバーバル行動の理論) 4単位 鈴 木 晶 夫

人間や動物は、意識的・無意識的に行動により情報を表出し、その行動から情報を解読している。その際、ノンバーバル行動の果す役割は大きい。個々のノンバーバル行動についての研究は比較的行われているが、その割合に比べて総合的研究は少ない。そこで、文献研究を通じてこの分野での研究動向を探り、得られた知見を材料にして、実際に観察や実験を行なう。研究論文の講読だけでなく、実習を通じてノンバーバル行動にさまざまな角度からアプローチし、その意義について考えたい。

前期には、研究論文講読の準備として、実験計画法についても学習する。独立変数、従属変数、統制などにこだわり、後に各自が実験を計画できるようになることを目指す。

演 習 II (達成動機) 4単位 青 柳 肇

達成動機とは、目標に高い基準を設定し、独自の方法でそれをやりとげようとする動機とすることができる。ここでは、主として達成動機に関する国内外の雑誌や文献を読み、理解を深める。更に、実際に実験を行なって、達成動機に関する研究法も学

ぶ。

教科書、参考書、文献については、授業でその都度指示する。

演 習 II (脳神経科学) 4単位

小 室 輝 昌

- 1 興奮伝導 (形態, 生理, 生化, 病因)
- 2 興奮の伝達 (電気および化学シナプスの構造, 細胞化学, 生化, 生理, 病因)
- 3 脳神経系発生 (形態形成, 機能発現に関与する分子機構)
- 4 感覚器 (構造, 受容とトランスダクションの分子機構)
- 5 行動

などについての新着および関連文献の検討

1993年度より演習IIの形式、内容、及び担当者が変更されます。

上記の担当者以外に下記の担当者が加わります。

演習II前期は、人間科学について総合的に考えてみるためのものである。人間科学に深く関わりをもっている生物学、心理行動科学、社会科学についての専門の立場から、人間を科学的にみるための方法や、人間のさまざまな側面に関する知識を習得する。学生は教師とともにこの演習を通じて人間を総合的に理解するための科学である人間科学を創造していく訓練の場としたい。学生は数班にわかれ、1班数人の教員が担当し演習を行なう。

演習II後期は一人の教員につき専門知識を深める。

*登録の際は演習II後期に教わりたいと思う教員を登録する。

演 習 II (現代都市社会論) (92年度休講) 4単位

白 井 恒 夫

本演習では、現代の都市生活の社会学的解明を主題とし、次の5つの視角から接近する。

- 1 都市の家族生活の展開と変容
- 2 近隣関係及び地域集団
- 3 都市問題・住民参加
- 4 都市社会構造
- 5 比較都市社会論

こうした作業を通じて、社会学者がこれまでどのような方法で都市を研究してきたかを明らかにし、そこうえて現代都市の構造や機能あるいは変動の実態を検討していく。どきればわが国の都市の現状や問題にも目を向けてみたい。

演習の進め方としては、前期は主として都市社会学に関連する基本文献の講読をおこなう。後期は、参加者各自の問題関心にそって、研究発表と討論を中心に進めていきたい。

演 習 II (93年度より開講) 4単位

中 村 桂 子

「生命」をキーワードにして、現在科学技術文明が転換し、新しい文明が生れるための枠組を考える。そこで新分野として「生命誌」を素材に議論を進める。

演 習 II (93年度より開講) 4単位

山 内 兄 人

動物としての人間の機能で重要なものの一つとして生殖があげられる。生殖生理は雌では卵子形成－性行動－排卵－妊娠－分娩－授乳－母性行動、雄では精子形成－性行動といった一連の機能よりなる。これらの機能は脳とホルモンの相互作用より行なわれているが、この演習では、それらに関する論文を読む事で基本的知識を学んでいきたい。また、それらの機能に付随する、雌と雄の脳の違い、脳の右と左の違いなどにもふれたい。

演 習 II (93年度より開講) 4単位

春 木 豊

行動という概念を中心に、これと関連のある分野（既存のテーマとしては行動理論や非言語行動）は勿論であるが、行動に関連のある新しいテーマをさぐり、文献研究をする。

演 習 II (93年度より開講) 4単位

大 島 康 行

人間を含め生物が周囲の影響のなかで、どのように生活しているかを、個体から集団へ問題を発展させ、演習を進める。また最近の人間活動による影響変化とその影響、いわゆる環境問題についても論議したい。各自の発表と討論の形式を中心に進めていく。

演 習 II (93年度より開講) 4単位

浅 井 邦 二

心理検査に欠くことのできない要件としての妥当性、信頼性の問題から、質問紙法、作業検査法、投影法などによる心理検査の効用と限界について、討論しながら進めたい。

演 習 II (環境社会学) (93年度より開講) 4単位

浜 口 晴 彦

本年度休講

- A. 環境と人間 (Eco-sociology)
- B. 人間と加齢・寿命 (Social Gerontology)
- C. 加齢・寿命と生き方 (Creative Sociology)

という3つの学際領域を自然と人間と社会の相互交流の問題として社会学、社会老年学、発達論の方法と考え方にもとづいて検討し、総合的に把握することを目指す。

演 習 II (93年度より開講) 4単位

吉 岡 亨

この演習の目指すところは、細胞内部における情報伝達機構の理解である。我々の身体は多くの臓器や組織から成り、各々の臓器や組織は多数の細胞の集合体である。我々の身体や心の問題を根本的に解明するには、身体を構成する最小単位としての細胞と、細胞同志の間の相互作用を解明しなければならないのは、至極当然のところである。

細胞を理解するための有力な方法は細胞に信号を送り込んだとき、その細胞がどのような応答を示すかを詳細に調べることである。そこでこの演習では主に脳の細胞(ニューロン)を中心として、各種の刺激に対する応答の仕方を分子レベルで理解することになる。このような学問領域は、「分子神経生物学」または「細胞情報伝達学」と呼ばれているものであり、学習や記憶といった脳の高次機能を理解するための最小限の知識や方法論を提供するものである。

演 習 II (異文化理解と文化の理論) (93年度より開講) 4単位

矢 野 敬 生

文化人類学の人間科学への寄与のひとつは、「文化の多様性」についての認識である。そこで、この演習では、〈文化〉を中心テーマとしてとりあげ、異なる文化に生きる人々の生活様式、社会構造、観念体系を照射することによって、文化の隠された意味と構造を明らかにしたい。すなわち、異なる文化 (other cultures) の理解をとおして、人類の固有財としての文化 (Culture) にせまりたいと考えている。

そこで、本演習では前期は主として、異文化理解の前提として、文化人類学の基本文献の講読を行う。人類学者は異なる文化を対象として、フィールドワークをとおして、一義的には民族誌 (ethnography) を記述することによって、異文化理解の方法を探究してきた。そこで後期は特定の文化に関する民族誌を輪読するとともに、併行して各自の関心領域にもとづいた研究発表と討論を通じて異文化への理解を深めたい。

専門教育科目 (人間基礎科学科 選択)

細胞学・発生学及び実習 (旧「細胞学及び実習」) 3単位 木村 一郎

臨海実験所に合宿して講義及び実習を行なう。合宿は後期授業終了後、春季休業開始時に集中して行う。なお、所沢キャンパスにおいても若干の講義を行う。

海産動物の生きた細胞を用いての細胞学的及び発生物学的な観察に主眼をおき、それに関連した講義を併せて行う。極めてダイナミックな姿を我々に見せてくれる生きた細胞・胚を観察することによって、通常の学習ではややもすると“死”物学となりがちなものを“生”物学として実感してもらうことを大きな目的としている。

具体的には、主としてウニ等の海産無脊椎動物を材料にして、配偶子細胞や受精の観察と実験、正常発生の観察、実験発生学的操作による観察、などを行う。

神経内分泌学及び実習 (旧「組織学及び実習」) 3単位 山内 兄人

脳とホルモンの相互機能を知るにはいろいろな手段が考えられるが、基本的なものとして形態的、行動的变化を調べる方法がある。この実習ではラットをもちいて脳と内分泌腺顕微鏡標本を作成し、それらの構造を理解すること。また、去勢をしたりホルモンの投与をしたりして、それらがどの様に变化するか調べ、神経内分泌学の基本的実験技術を学んでもらう。さらに、脳の手術の習得もしてもらう予定でいる。講義は脳とホルモンの関係について行う。

生理学・分子生物学及び実習 (旧「生理学及び実習」) 3単位 中村 桂子

生きている細胞は、呼吸・興奮・分泌・代謝など様々な生理機能を示すことが知られている。このような生理機能を分子のレベルで説明しようとするのがこの科目の目的である。講義と実習の二つのパートに分けて行う。前半で行う講義は、“Molecular Biology of the Cell”(「細胞の分子生物学」第2版監修中村桂子、松原謙一、(1990年)を教科書として用いて行う。後半で行う実習は培養細胞を用いて、(1)電気生理的測定、(2)生化学的測定、(3)発現遺伝子の解析をそれぞれ1～2回ずつ行う。この実習では、細胞の生理機能を遺伝子とタンパク質のレベルでコントロールすることを学習する。

遺伝学及び実習 3単位 飯野 徹雄

遺伝学発展の歴史に沿って、遺伝子概念の成立、遺伝的変質の機構、遺伝情報の実体、遺伝子発現の制御機構等の基本的知識を講述する。

実習においては、遺伝学的分析法の基本である遺伝形質の検定法、遺伝子の導入法、

形質転換法など基礎技術を習得せしめる。

脳神経科学及び実習 3単位

小 室 輝 昌

生体の機能には必ずそれに対応する構造の裏付けがある。ここでは脳神経系を構成する細胞要素の詳細な構造とその機能との関連を解説する。

実習：神経組織の電子顕微鏡標本作製、写真の撮影及びその見方の指導を行う。

情報生理学及び実習 3単位

吉 岡 亨

ヒトが生命を任うするためには、摂食・生殖などの諸行動をつつがなく行わなければならない。ヒトはこのために外界の状況を観察し適切な対応を行っている。そのために体内には電気的情報（神経インパルス）と物質的情報（ホルモン）の伝達経路がすき間なく配置されている。ここでは電気的・物質的情報の伝達の機構に焦点を絞って解説すると同時に、実習を通して、それらの現象を体験的に理解させ、ヒト体内の情報伝達システムを総合的に理解させる。

生態学及び実習 3単位

佐 伯 敏 郎

環境という場合、ふつう人間の環境のことに限っているが、地球上にはおびただしい数の生物が生存し、それぞれの生物種は独自の環境下にある。対人間に限っていた眼を、生物一般に拡げることによって、人間の環境の意味もまた、より深く理解されるようになる。環境といえまわりの事物をふつう考えるが、それとは別に生物自身が他の生物の環境の一部を構成するという観点も重要である。他種間と、種内のおのおのにおいて成立する、資源の取り合いとしての競争関係や、食う食われるの関係のように、生物の相互関係が自然の中で果している重要性は生態学の中でも特に重視される。他方、非生物的、物理的環境の重要性もやはり大きい。講義では際限のない個々の生物の物語りや環境ではなくて、一般性の高い生物—環境関係を生態学の中心にすえたい。講義に関連して生態学実習があるが、これは別個に集中して実施される予定である。

生 物 工 学 2単位（92年度まで開講）

飯 野 徹 雄

生物工学の基本技術である、細胞培養、細胞融合、組換え、DNA、バイオリアクター等の諸技術について、その成立の背景と技術的内容を通説した上で、生物工学活用の現状を、生物生産、育種、難病治療等の各種応用分野にわたって講述する。

比 較 行 動 学 2単位

青 木 清

ヒトも含めた動物の行動発現と行動の特徴について、神経生理学的方法による成果について述べる。①動物における本能行動、②学習、③行動を制御する中枢神経系、

④行動の発達と脳、⑤神経生理学に基づいた本能論などを述べる。これら課題については最近の研究成果にもとづいて述べるが、本論義の目的は人間の自然科学的理解を得ることにある。

生 理 心 理 学 2単位

山 崎 勝 男

主として、動物の生理的な変数を独立変数として操作し、それに対応して生じる行動を従属変数としてとらえ、行動の生理学的な機序を解明しようとする学問領域を生理心理学という。行動の諸側面を中枢神経系の構造と機能とに対応づけて考察する、生理学と心理学の学際的な立場をとる。狭義には行動の神経生理学と呼んでもよいが、最近では神経科学に包括されている。ここでは脳損傷、脳刺激、薬物投与、食餌規制などの生理学的な方法を用いて、それらが動物の行動に及ぼす影響を、意識水準、学習、記憶、情動、動機づけ、条件反応、自己刺激、食餌選択などの心理学的な方法で観察した結果を紹介し、両変数を媒介する中枢過程を概説する。またこの学問領域と密接な関係を持つ精神生理学にも言及する。

認知行動理論 2単位 (旧行動理論)

根 建 金 男

認知行動理論ならびに、それに基づく心理治療の体系である認知行動療法について学習する。認知行動療法は、従来の行動論的アプローチと認知的アプローチを統合したものであり、行動療法と精神療法をつなぐものでもある。講義の前半では、認知行動療法の基盤となった従来の行動論的アプローチの理論と実際を概説する。後半では、認知行動療法の理論と実際について解説する。講義は、治療の実際を示すビデオによる学習、治療の技法の体験、心理テストの実習なども含めて行う。受講者が認知行動理論の考え方を日常に生かせるようにしたい。

教科書は使用しない。参考書はその都度指示する。

行動学研究法及び実習 3単位

1. 春 木 豊

2. 鈴 木 晶 夫

心理学研究法及び実習 3単位

1. 青 柳 肇

2. 佐々木 正 人

心理学的測定法及び実習 3単位

1. 浅 井 邦 二

2. 根 建 金 男

心理学的測定法は、心理学研究及び行動学研究に従事する者にとって事象の特性を数量化するのに不可欠な条件である。故に、すべての学生諸君に基本を取得して欲しい方法である。その知識を実際に生かし、心理学研究、行動学研究それぞれの実験実習を通じて、心理的、行動的側面の測定てはいかなるものかを体験してもらう。実験後はレポート提出を義務づける。実験学習での1回の欠席は、自他ともに多大な影響

を及ぼすので、各自の自覚を望む。なお、6種の実習の内容は同じである。履修の際にはどれか一つを選択することになる。ただし前期・後期の割り振りについては前年度中に学科で調査を行ない、結果を履修登録以前に学科室前に掲示する。前期に割り振られた者は前期の科目名で、後期の者は後期の科目名で登録すること。また実習なので履修可能者数に上限がある。希望者全員が履修できないこともある。

非言語行動論 2単位

鈴木 晶 夫

非言語的情報伝達手段として代表的チャネルに、表情表出、視線行動、身振り（ジェスチャー）、空間行動などがあげられる。これまでの研究から導き出された事実を中心に講義し、非言語行動を通じて、動物や人間がどのようにして他者とコミュニケーションを形成し、維持し、発展させているのかについて考えたい。

認知発達理論 2単位

佐々木 正 人

エコロジカルな認識研究の枠組と最新の成果について講義する。

内容はギブソンの知覚理論、パートレットのスキーマ論、バフチンのジャンル論とジェスチャー研究などである。

「からだ：認識の原点」（認知科学選書15東大出版会）を教科書に指定する。

動機づけ理論 2単位

青 柳 肇

動機づけは、心理学研究のなかでも基礎的領域の一つである。何故そのような行動をとるのか、何故そのように考えるのか、といった「何故」を問題を扱うのが動機づけの研究領域だといってよい。ここでは、動機づけの考え方の古典的なものから現代のものまで、歴史的変遷を踏まえて述べていく。

社会学理論史 2単位

濱 口 晴 彦

現代社会学理論の形成過程を、

1. 社会学思想の形成
2. 社会学理論の特徴

の2つの観点から講述する。

社会集団論 I 2単位

矢 野 敬 生

社会は単なる個人の集まりではなく、ひとは互いに依存しあい、なんらかの関係をもちながら生きている。こうした営みを集団性の視座からとらえる。そこで、社会学の「集団論」のみならず、社会人類学の「社会組織論」の成果をふまえて講義をすすめる。基本的には、時間的歴史的展望を縦軸に、横軸には各レベルに対応した特徴的な集団である親族集団、村落共同体、機能的集団に焦点をあて、現実の諸社会のもつ

多様性の把握を通じて、社会集団の諸相を明らかにしたい。特に、社会集団論Ⅰにおいて一般的理論を展望し、考察する。参考文献としては、Selby, H.S. 1975, Social Organization: Symbol, Structure, and Setting を用いる予定である。

社会集団論Ⅱ 2単位

矢野 敬 生

社会集団論Ⅰでの一般的理論をうけて、社会集団論Ⅱではとくに個別社会に焦点をあてて考察する。本年度は、Weiner, A.B. 1987. The Trobrianders of Papua New Guinea (Holt, Rinehart and Winston) を素材として、演習方式(学生諸君は、上記文献を読み、かつ発表する)ですすめる予定である。授講者は、基礎的な予備知識を有することが望ましい。

家族社会学及び実習Ⅰ 3単位

池 岡 義 孝

個人の一生や生涯発達の過程に注目するライフコース研究と生活史研究の基本的な考え方を理解し、データ収集およびデータ整理の技法を習得することを目的とする。具体的な作業手順は以下のようである。1) 文献の検討によって基本的な考え方とデータ収集・データ分析の技法を学ぶ。2) テーマを設定し、それにもとづく調査票を作成する。3) 予備調査の実施。4) 調査対象者の選定。5) 本調査の実施。6) 収集したデータの整理。

なお、本調査は夏休み期間中に調査地での合宿形式によって行ない、参加者には収集したデータにもとづくレポートが課せられる。また、集団調査ではなく、個人でテーマを設定して個人で調査を行なうコースも設けたい。

家族社会学及び実習Ⅱ 3単位

池 岡 義 孝

実習Ⅰをうけ、ライフコース研究や生活史研究で収集されたデータの分析を行なう。したがって、この科目を履修するためには、実習Ⅰの履修が前提となる。具体的な作業手順は以下のとおりである。1) データ分析の技法を文献の検討によって習得する。2) 実習Ⅰで収集されたデータの分析を行なう。3) 調査報告書を完成する。

なお、データ分析の過程で、必要に応じて補充調査を実施することもありうる。

村落社会学及び実習Ⅰ・Ⅱ 各3単位

柿 崎 京 一

矢 野 敬 生

人間の創造した生活基盤としての地域社会の中で、とくに農山漁村を含む村落社会を対象とし、生活者としての人間について実証的に理解することをねらいとする。

実習Ⅰでは、主として特定村落における調査実習を通して実証的研究の方法について学習する。とくに調査実習については、1) 各自がそれぞれ研究テーマを選定し、テーマに即して作業仮説を設定、2) 調査項目および調査票の作成、3) 予備調査、4) 本調

査(合宿)を行ない、5)調査収集資料の整理・分析、6)報告書作成について指導する。

実習Ⅱでは、調査実習をふまえて、村落社会およびそこの生活者を理解するために、既存の研究成果について検討し、随時研究報告を行ないながら、問題の所在を明らかにする。必要に応じアジア諸国の村落についても触れる。但し、本年度については移行措置をかんがみ、実習Ⅰの現地調査について個人調査を希望する者は別途考慮する。なお、実習Ⅱを履習する学生は、実習Ⅰを履習することが望ましい。詳しくは授業のはじめに指示する。

都市社会学及び実習Ⅰ (92年度休講) 3単位

白井恒夫

現地での調査実習及び既存資料の二次的分析をおこなうことを念頭において、都市社会学に関連した研究テーマを各自の問題関心のなかから引き出したい。そのために、参加者の研究報告と討論を中心にして、具体的なテーマ設定に結びつけていく。したがって、研究テーマ、調査地、調査方法などは今のところ未定であるが、こうした集中的な作業をつうじて、文献の読解力、集計・分析・報告の能力を身につけてもらいたい。

なお、本講は前期配当課目であるが、調査実施の必要上、「都市社会学及び実習Ⅱ」と合わせて通年制をとることになる。予定としては、夏休み期間中に現地調査を実施し、後期の「都市社会学及び実習Ⅱ」の授業時間で調査結果の集計・分析及び報告書作成の作業を進めていく。したがって、「都市社会学及び実習Ⅰ」を履修する学生は、「都市社会学及び実習Ⅱ」を続けて履修することが望ましい(92年度休講)。

都市社会学及び実習Ⅱ (92年度休講) 3単位

白井恒夫

「都市社会学及び実習Ⅰ」で述べたように、本講はⅠと合わせて実質的に通年制をとることになる。したがって、この授業を履修する学生は、同時にⅠも履修していることが望ましい。

社会福祉論Ⅰ 2単位

児玉幹夫

社会福祉は、「人間科学」という総合科学が、現実に活用される実践領域である。人間の生活は、身体的・精神的・社会的・文化的な諸側面が密接にからみ合って全体を成り立たせているので、問題の表面化している一側面だけを補修しても、生活全体は改善されない。近年提唱されている統合的ソーシャル・ワークは、心理学・社会学・人類学・生理学など関連諸科学を体系化し、人間生活をトータルにとられる立場から、福祉の増進に寄与しようとする試みである。

社会福祉の思想と制度の発展と現状をあとづけながら、福祉の実践がヒューマニズムに支えられているように、福祉の研究がいかにヒューマン・サイエンスに基礎づけられているかを考えていきたい。

社会福祉論Ⅱ 2単位

麦 倉 哲

Ⅱでは、主として日本における社会福祉の現状と課題について、社会福祉調査との関連で講ずる。社会福祉施策の対象と方法は、当該社会の制度によって定義されており、この制度は近代社会においては人びとの合意を前提とする。社会福祉の現状に対して人びとがたえず関心をもつことで、制度は適宜確認され、必要に応じて見直される。社会福祉調査の意義は、単にそれが社会福祉技術を改善に導くだけでなく、社会福祉の現状に対する人びとの関心を喚起することにある。

現状では、児童、高齢者、心身障害者、そして生活障害者などを対象にして、種々の施策が組み合わされている。こうした施策の諸局面において、社会福祉調査がどのように役立っているのかを考えたい。また、あらたに注目を集めている大都市居住問題や外国人問題に対して、どのような調査が可能であるのかを考えたい。

社会病理学 2単位

麦 倉 哲

社会病理学は、人間の行為、生活、社会集団に生じた障害を社会学的手法を用いて分析、検討し、その障害を取り除いて安定した社会生活を実現する方策を探究する学問領域である。その意味で社会病理学は、社会学のなかでもっとも実践的志向の強い領域であるといえる。

本講では、社会病理学への理解をえるために放火、売春、暴力団等の社会的現実に分け入りながら実践の方策を探究していく。テキスト、参考文献については教場で指示する。

人口学Ⅰ 2単位

嵯峨座 晴 夫

人口学(demography)は、主として、人間の集合体である人口に変動をもたらす要因である、出生、死亡、移動の分析と、人口と社会経済的変数との相互関係を解明することを目的としている。人口学Ⅰでは、体系化された人口分析の方法、および応用としての人口研究の諸理論を紹介する。

人口学Ⅱ 2単位

嵯峨座 晴 夫

ここでは、人口問題について講述する。人口問題とは、人口変動が自然、社会、経済などとの関連においてひき起こす諸問題のことである。それには大きく分けると、人口増加がもたらす諸問題と、人口の停滞ないし減少がもたらす諸問題がある。とくに、後者のうち、高齢化の問題が今日、世界的に顕著になってきているので、後半においては高齢化について社会老年学的な考察を加える。

人口学Ⅱを選択する者は、人口学Ⅰを習得していることが必要である。

特 論 I (現代免疫学) 2単位

加 茂 功

生体全体はバランスよく統御されており、病原体や異物の侵入に対しても恒常性を維持しようとする機構が作用する。これを生体防御と呼んでいる。その最も進化した機構が免疫と呼ばれるものである。免疫応答は自分と自分でないものを識別するプロセス、非自己と識別したものに対する免疫反応を増幅するための細胞や、分子を産生するプロセス、そして非自己と一度遭遇したリンパ球クローンを免疫記憶として温存し、次回には速かに応答できるようにするプロセスから成り立っている。

最近の学問の進歩はめざましくこのようなプロセス等を細胞、遺伝子、分子レベルでとらえることが可能になり、病気の予防、治療の面への利用もはかられている。本講では、以上の点を論じていきたい。

特 論 II (老年心理学) 2単位

柄 澤 昭 秀

この領域は比較的新らしいこともあって、正しい知識がまだ十分普及されていない。一部の老人にみられる現象が老人一般に共通する心理であるかのように見なされたり、老化現象としての心理的变化と病的な変化とが混同されているようなこともしばしばある。本論ではこれまでに明らかにされた正常な老人の心理について概説するとともに、抑うつ、妄想、痴呆など老人によくみられる異常心理(精神病理)についても言及する。

専 門 教 育 科 目 (人間健康科学科 必修)

福 祉 援 助 論 2単位

岡 野 静 二

欧米における社会福祉の発達と、その日本への影響について考える。またそれとは別に、わが国における福祉の行動の歴史的展開を調べる。そして日本の精神的風土の中で、なにが福祉援助を、基本的に支えるものなのかを探りたい。そこで次の項目にしたがって授業をすすめることにする。

1)欧米における福祉援助とそれを支える社会 2)日本における福祉援助とそれを支える思想と社会 3)今後の課題

地 域 福 祉 論 2単位

岡 野 静 二

現代社会における地域福祉の重要性を、説明しつつ、福祉が地域社会形成の基本的条件であることを明らかにする。そこで次の項目の順序で、講義をすすめる。地域社会とボランティア活動。地域社会と小・中学生問題。地域社会と青年問題。地域社会と高齢者問題。以上の講義には、実践的な問題や課題を、多く提出することにする。結局、地域福祉の課題として、なにができるか、どこまでできるかを、じっくり考えることがねらいである。

臨 床 心 理 学 2単位

門 前 進

臨床心理学は心理学の現実への応用に重点がおかれている。

内容として大きく分けると、人格理解、心理療法ということになる。しかし、人格理解においても心理療法を基礎とした人格理解の理論や、目の前の人間の行動や、心理検査を通して理解するといった理解の仕方がある。また、心理療法においても、さまざまな人格理解を基礎にした技法が現在用いられている。さらに、心理療法の対象に関してもさまざまな人がいる。例えば、子どもから老人。健康的な人の悩み相談から、精神的に明らかに病気であるという人までいる。

このようにさまざまな領域が考えられるが、これらについて全般的に話していくつもりである。

人 間 関 係 論 I 2単位

安 藤 喜久雄

人間関係は、社会、組織、集団の構造、システムや文化、風土などによって規定される。それゆえ、日本における社会、組織、集団の構造的文化的特質をふまえながら、社会、組織、集団と個人との関係や日本人の意識などについて分析検討を行う予定で

ある。

参考文献は授業中に指示する。

人間関係論Ⅱ 2単位

斉 藤 勇

人間関係の心理学的アプローチを中心に講義する。講義内容は次の通りであるが、可能な限り、実際の調査や実験も実施していく予定である。

- ・ 人間関係の認知
- ・ 人間関係と感情
- ・ 対人間の相互作用
- ・ 集団の中の人間関係
- ・ 組織の中の人間関係
- ・ 人間関係を知る研究方法

精神身体医学Ⅱ 2単位

半 田 貴 士

精神と身体との関わりを論ずる場合、種々のアプローチがあると思われるが、本講義では、精神医学全般にわたる基礎的概念についての理解を行った上で、次の大きな2つの観点から講述する。

1) 人間の心理過程とその異常が、どこまで身体としての「脳」とその機能障害に関連づけて理解可能であるか。(神経心理学的立場)

痴呆、脳局所損傷などを中心に述べる。

2) 人間の精神機能の障害が、身体症状として、どのような形でまたいかなる機制で表現されるか。

ここでは、心身症、ヒステリー、精神分裂病などについて言及する。

また、東西の心身論についても、紹介、解説する予定である。

環境心理学Ⅱ 2単位

佐 古 順 彦

環境心理学の研究分野を概観する。環境心理学の考え方、環境と個人の心理（環境の知覚、環境の心理的評価、環境とパーソナリティ）、環境と社会的相互作用の心理（空間や場所における人間関係）、そして物理的社会的環境と人間行動の心理（住居や地域や公共の環境における諸問題）についての基礎的な研究を紹介する。

運動・保健概論 2単位

宮 崎 正 己

健康についての定義は、WHOの定義にあるが、あまり現実的ではない。それよりも健康は、たくましさをもった面も存在している。このことは、身体的な面だけでなく、精神的な面についてもあてはまる。よりポジティブな健康の維持・増進をはかるためには、身体的な面に関して言えば、健康を支える能力を強化することである。

本講義では、人の機能を中心として、その健康を支える能力を強化するために、種々なる環境条件下における生体の発現およびその機構について、最近の知見を中心に進めていく。参考書は、授業中に指示する。

レクリエーション論 (92年度休講) 2単位

吉 村 正

レクリエーション（以下レク）の概念、レクの日米比較、レクの分類と展開、レク指導者との指導法、レク施設と環境などについて講義する。

また、その中でもセラピューティック・レクリエーション（治療レク）とリゾートやレジャーについては、詳しく講義したい。

演 習 I 4単位

健康科学科は、大きく分けて環境心理学、社会学、臨床心理学および人間工学の4つの分野がある。演習IIではそれぞれの分野を選択し学ぶが、演習Iでは上記の4分野全てについて、基本的な考え方および研究の方法論を学習する。

演習は20名前後を一つの班とし、8つの班に分かれて行われる。各分野について4回程度を以下の各担当者について学ぶことになる。各班共通の授業もあるので注意すること。また、演習Iは2コマ連続の授業となる。

担当者

環境心理学 佐古順彦 野嶋栄一郎

社会学 店田廣文 谷川章雄

臨床心理学 坂野雄二 門前進 菅野純

人間工学 石田敏郎 宮崎正己

演 習 II (日本の民俗文化) 4単位

谷 川 章 雄

この演習では、日本の民俗文化の研究に際しての様々なものの考え方、方法を学ぶとともに、実際に民俗文化の世界の一端に触れることを行う。すなわち、神と人間と自然との交渉、人間とモノとの関係からなる日本の民俗文化の多様な世界を知ることが第一の目的である。具体的には、基礎的な文献の講読、フィールド・ワーク及び調査報告の作成、さらに各自の卒業論文に向けての準備に入っていくことを目標とする。

演 習 II (高齢者を含む福祉援助) 4単位

岡 野 静 二

高齢者問題と心身障害者の問題が、ボランティア活動の中で重要な位置をしめることはたしかである。そのために、それに関する文献をしらべ、同時に高齢者及び心身障害者のところへ出掛け、調査をすることにする。そのことによって問題点や課題が各人の中にたしかなものとして生まれたら、日本における高齢者問題と心身障害者の問題を、個人の行動と組織の力とでつまりボランティア活動として、なにができるか

を考える。

演 習 II (催眠を中心とした心理療法) 4単位 門 前 進

臨床実験研究の内容と、臨床実践を2本の柱として、演習を行っていく。

臨床実験としては、まず基礎実験の技法の習得、データ処理のための統計手法の習得などである。さらに、催眠現象、臨床心理現象に関係する実験論文、調査論文、書籍を各自が探してきて、それを紹介していく。これらを通して、各自の卒業研究に向けての実験計画、調査計画、文献研究計画などを組み立てていくことを目標とする。催眠的臨床心理に関係するものには、リラックス、イメージ、暗示現象、葛藤、情動に関係するものなどが含まれる。臨床実践については、催眠的技法、リラクセーションに関する技法、カウンセリング技法などの実習を中心として行う。

演 習 II (健康とレクリエーション) 4単位 吉 村 正

本演習では、下記の4項目について学習する。

1. Therapeutic Recreation では、医師、看護婦、ケースワーカーやアレルギー患者たちと、サマーキャンプを行い、24時間診療を試みる。春に病院見学、秋に治療レクリエーションを行う。(医療スタッフからの特別講義も予定している。)
2. Outdoor Recreation では、都会の雑踏から離れ、自然に触れ、Recreation(再創造)活動と学習を行いながら、人間の健康やレクリエーションについて考える。
3. Recreation Education では、レク活動やレジャー活動を通して、豊かに創造力(creation)を養う学習を行う。
4. 健康やレクリエーションに関する文献の講読、レジュメの作成、発表などを行う。それらを通して、人間の健康や、レクリエーション活動や指導法を正しく理解する学習も行う。

演 習 II (発達と環境) 4単位 山 本 多喜司

私たちを取りまく環境には、自然や建造物のような物理的環境、対人関係を中心とする社会的環境およびルールや習慣などの社会文化的環境がある。これらの環境の認知や評価は認知したり、評価したりする人の年齢や職業などによって異なるし、また、その環境に慣れているかどうかによっても異なる。人間と環境との相互交流を、主として個体発達と微視発生的発達の観点から考察する。具体的には子ども部屋、家屋の住み心地の研究、キャンパスや都市の認知地図の作成と分析、公園・町並み・自然景観の評価、アメニティの概念の分析、子どもの対人関係・人間関係の拡大過程の分析、サークルの雰囲気や学風のSD法による分析、環境差が発達に及ぼす影響の研究などをする。前期はそれぞれのテーマに該当する代表的論文を呼んで討論し、科学研究方法をマスターする。後期は各自のテーマを決め研究の計画書をつくり、調査・実験

を行ない結果を論文としてまとめる。

演 習 II (社会開発論 <地域社会の開発に関する調査と研究>) 4 単位

店 田 廣 文

住民運動はひと頃に比べると社会の耳目を集めるといった点では大きく後退した感否めない。しかしこれは地域社会に運動の対象となりうる問題等が減少したのではなく、従来の公害などの謂わば直接的な生活妨害問題といった狭い領域からより対象が広がり運動そのものが多様化し質的变化をとげたためといえよう。本演習では社会開発に関わるまちづくり運動や住民運動をテーマとして取りあげ、演習参加者各々がサブテーマを分担し、資料検索・収集を進めつつ、適宜中間報告をおこなう。そのうえで全員が参加して、地域社会調査を実施する。これらを軸として、研究発表・レポート作成さらに卒業研究の指導をおこなう。

演 習 II (人間工学) 4 単位

石 田 敏 郎

オフィスオートメーションの発展に伴い労働現場では VDT 作業など、視覚情報処理作業が増大してきた。その結果、視覚的疲労や、局所筋負担などが新たな産業疲労として、人間工学の重要な課題となっている。本演習では、この問題を核として、人間工学を学ぶ上で基本となる種々の測定手法およびデータ解析手法についての実習を行なう。実習項目の主なもの、人体計測、動作域、照明と明るさ感、人間の情報処理、生体情報処理などである。また、実習レポートとその発表が参加者に義務づけられるが、そのほかに、自主調査テーマの報告が求められる。

演 習 II (人間工学<生活の場の人間工学>) 4 単位 野 呂 影 男

人間工学とくに、生活のなかで必要とされる人間工学について演習をおこなう。前期は、オフィス・デザイン・医療看護・家庭などで必要とする人間工学について、班に分かれて演習を行う。後期は、いくつかの課題を選択して、演習をおこなう。高度の数学は必要ない。環境・臨床心理学あるいは社会心理学の知識が活用される。仮想現実づくりの演習も行う。

演 習 II (人間行動と環境 (医)) 4 単位

黒 田 勲

各種作業環境下における人間行動の認知科学的モデルとその影響要因について検討を加える。認知モデルを用いてワークロードの評価、タスクの流れの解析と評価、人的信頼性の定量的評価を行う。さらに現場作業における人的過談のメカニズム、マン・マシン・インターフェイスにおける認知科学的評価について演習を行なう。

演 習 II (学校カウンセリング) 4単位

小 泉 英 二

この演習では、1)学校カウンセリングの組織と体制、方法、学校カウンセラーの役割、現状と問題、2)相談の専門機関としての教育センターや児童相談所の機能と役割、3)両者の連携上の諸問題について学習すると共に、主要な相談技法、たとえばカウンセリング、遊戯療法、ケーススタディーなどについて演習する。また、教育研究所、教育センターの相談部門や児童相談所を分担して訪問し、それぞれの業務の特色やサービスの差異などについて比較研究も試みる。後半においては、各自の研究テーマを定めて論文にまとめる演習も行いたい。

演 習 II (教育工学<教育工学と教育心理学>) 4単位 野 嶋 栄一郎

教育心理学と教育工学の関係は、基礎と応用の関係にある。基礎的な研究は実験、調査を、応用的研究は開発を主たる研究方法とする。研究の対象は、教育という枠組の中での人間の行動、教育環境、およびそれらの相互作用である。

前半は資料講読、後半は調査・実験の班別の演習を行なう。カバーする領域は、メディアと認知、教育環境と行動、教育測定と教育評価、タスクアナリシス、プログラム学習と指導法、適性と指導法、等々である。

演 習 II (行動療法) 4単位

坂 野 雄 二

前半は、「心理学研究」誌、「教育心理学研究」誌、「行動療法研究」誌、“Behavior Therapy”誌、“Behaviour Research and Therapy”誌等に発表された論文や症例報告の講読を中心にして、行動療法の実践について、実験臨床とケーススタディの両面から演習を行う。「行動療法Ⅰ」および「行動療法Ⅱ」において学習した基礎的事項を実際の臨床場面において応用できるよう学習を行う。後半には、臨床の基礎研究として、不安、神経症、ストレス、抑うつ、児童生徒の学習や問題行動等に関わる諸要因(人格変数、環境、対人関係等)の検討を実験もしくは調査によって行う予定である。

演 習 II (人間工学<作業及び労働生理学>) 4単位 宮 崎 正 己

本演習では、生体情報処理を中心としておこなう。具体的には、積極的な健康へのアプローチとしての身体活動、あるいは、疲労に至るまでの、人の生体反応を観察する予定である。

実施項目としては、身体の構造として、臓態、皮下脂肪厚、身体組成、姿勢、重心などの計測をおこなう。また、身体の機能からは、各種エルゴメトリー、心電図、心拍数、血圧、体温、発揮張力、筋電図、反応時間、反射、神経伝導速度等の測定をおこなう。

いずれも、実習を中心となり、おたがいが検者、被検者としての役割を果たしても

らうことになる。それぞれの項目が終了するごとに、レポートの提出をおこなう。文献抄読もあわせておこなう予定である。

演 習 II (環境心理学) 4 単位

相 馬 一 郎

前半は環境心理学を理解するため文献を読み、その報告を中心におこなう。後半は、各自がテーマを決め、それを中心に計画を立て、具体的な実験・調査をおこなう。テーマによっては文献中心ということもある。ここでの実験・調査をもとに卒業研究のテーマをしぼりこむことを意図している。

演 習 II (環境認知) 4 単位

佐 古 順 彦

環境——行動の関係の研究を特に認知の観点から取り上げる。前半は環境心理学関係の文献の講読を中心に基本的な概念の学習を行なう。後半は物理的環境の認知(場所や空間の認知)と社会的環境の認知(社会的ジレンマや環境ハザードの認知)についての実際の研究について議論し、実践する。

演 習 II (発達と臨床) 4 単位

菅 野 純

この演習では、乳幼児期から青年期までの成長の“つまづき”を、発達および臨床的視点から学んでいく。

人間発達の各理論、発達の障害、精神の病理、精神発達の理解の方法、教育治療の方法などについて、演習を行っていく。

演 習 II (バイオエシックスの基礎理論と臨床の倫理) 木 村 利 人

バイオエシックス基礎理論の徹底的理解を目指して、哲学・宗教・倫理・医学・生物学に関連する重要な文献を幅広く読み、レポートし、更に具体的な「事例」をとりあげ研究・調査・討議等を行う。たとえば、臨床的見地から「真実告知」の方法とその内容、インフォームド・コンセントをめぐる医療の現場の問題などをとりあげる。また、セミナー参加者の学習のニーズに応じ、いのちの始まり、いのちの質、いのちの終り等のそれぞれのテーマに即し、論文の書き方、発表の仕方等についてもトレーニングし、卒論へと結びつけて行く。外国語による研究・講義・討議も行うので極めて長時間の準備が必要となる。

更にこれらの内容をまとめて外国語による報告や討議のセッションを、外国人学者や外国留学生を迎えて行う。成績の評価は、グループレポートと個人レポートの内容、討論への参加による貢献度、発言の内容等を慎重に考慮して行う。合宿への参加は義務である。

専門教育科目 (人間健康科学科 選択)

産業・職業社会学 4単位

安藤 喜久雄

産業・職業社会学の諸分野——企業組織、労働者意識、労働組合、労使関係、産業と社会、職業など——について、これまでの研究成果をふまえながら、各々の現状と課題について講義する。これらを通じて現代産業社会における人間の生き方を探してみたい。

〔教科書〕：『産業と組織の社会学』安藤喜久雄・田草川僚一著、学文社刊

生活構造論Ⅰ 2単位

池岡 義孝

「ゆらぎ」とか「ファジー」という言葉がもてはやされている。社会にかんしていえば、これらの言葉は価値観の多様化や生活様式の個性化が進んで、人びとの活動が読みとりにくい社会になってきたことを表現している。この見えにくい現代社会に生きる人間を把握するために、従来の社会構造概念にかえて、「生活」をキーワードとする「生活構造」研究が注目を集めるようになってきた。

本講では、生活構造論の基本的な考え方を紹介するとともに、ライフスタイル研究、社会的ネットワーク研究、ライフコース研究など、生活構造研究と連動する新たな研究の展開についても取り上げ、最終的には人間の生涯発達を生活構造の変動過程としてとらえる視点を提示したい。テキストはとくに使用せず、参考文献は教場でその都度指示する。

生活構造論Ⅱ 2単位

柿崎 京一

「生活構造論Ⅰ」の講義をうけて、本講では、与えられ表題の「構造論」や「システム論」的立場にとらわれず、人間の具体的な日常経験からアプローチしてみたい。つまり、人間は、時間や空間の概念、あるいは因果の観念などをとおして、象徴的・意味的に構成した世界（現実）に生きている。ということは、人間によって認知され、解釈され、意味づけられた環境が人間にとっての世界であり、現実であるということである。したがって、人間の生活行為を、客観的、構造決定論的分析の対象とする立場ではなく、生活行為者の主観と能動性を重視する「日常生活」、「生活世界」の視点から、人間の存在、生活について考えてみることを課題としたい。

はじめに、社会学においてこうした視点の提起されてきた背景と、その主要な理論について解説し、そのあとで具体的事例について紹介する。

社会運動論 (92年度休講) 2単位

濱 口 晴 彦

社会運動を社会問題解決の集合的志向としてとらえ、それらの事例をふまえながら次のような柱を立て講述する。

1. 社会運動の意識化
2. 社会運動の構造化
3. 社会運動の組織化

〔教科書〕：『社会運動の組織化』(早大出版部刊)

社会意識論 2単位

和 田 修 一

社会意識とは、個人の形成する意識の総和や平均値ではなく、社会構造や文化の在り方等に基づいて形づくられる社会事象の1つのタイプである。したがって、日本社会の歴史や文化、そして今日的な経済・社会構造を背景に有する日本的な社会意識の存在を想定することが可能である。

本講義では、主として「老い」(ageing)という事柄について日本人が抱いているイメージや思想について「社会意識論」の視点から論じたいと思う。日本の特徴を分析するにあたっては、主として英国社会との比較を重視したいと思っている。

社会調査法Ⅰ 2単位

店 田 廣 文

本講の目的は、特定の社会現象を解明するために定められたデータ収集とデータ分析の科学的方法である社会調査法の基本的な考え方と技法を修得することである。取り上げる課題の主たるものは、①社会調査の目的と全体の流れ、②標本調査の考え方と標本抽出の方法、③質問文と調査票の作成、④パソコンを利用した調査データの解析法と統計的検定を予定している。これらのことを通して最終的には、各人が各人の関心テーマに応じた調査計画を作成できるようにしたい。

社会調査法Ⅱ 2単位

野 嶋 栄一郎

(1)測定の基本理論、(2)測定の信頼性と妥当性、(3)調査票の設計、(4)標本抽出と標本調査法、(5)データ解析(回帰分析、判別分析、因子分析、数量化理論)、(6)行動科学における理論化とモデル構成のうち、3～4個のテーマをとりあげ解説する。

使用教科書『調査の技術』浅井晃著(日科技連)

『テストの信頼性と妥当性』カーマイン&シェラー

(水野銅司、野嶋栄一郎訳) 朝倉書店

社会開発論 2単位

店 田 廣 文

社会開発は経済開発重視の政策への対抗的な概念として積極的に唱えられてきたもので、社会開発そのものは一般的には生活環境の整備、住宅、保健・医療・衛生や教

育・文化など広義の社会の福祉水準向上や人間の能力向上を目的とするものである。この講義では社会開発の理論と実際の開発過程について、住民参加の問題や社会開発のための認識・予測・評価・計画に関わる社会指標の考え方もとり入れながら、論じていくことにしたい。

コミュニケーション論 2単位

田 中 伯 知

本年度は、パーソナル・コミュニケーションとマス・コミュニケーションとの係わりに焦点を絞り、コミュニケーション過程の諸問題に取り組んでいきたい。そこでまず必要な基礎知識を得るため、前半ではおもにマス・コミュニケーション研究の歴史をふりかえってみたい。また、マス・コミュニケーション理論は、心理学、社会学、政治学などの領域とも深くかかわっている。したがって後半では、マス・コミュニケーション過程を共通のテーマに据え、政治（投票行動、世論形成）や広告などの領域にも分析をすすめていくつもりである。

余 暇 論 2単位

長 田 攻 一

「余暇」という概念は、もともと残余的な意味合いが強いものであるが、その社会的意味は社会の歴史とともに変化してきた。本講では、余暇の文明史的意味の変遷を俯瞰するとともに、脱工業化社会と呼ばれる今日の社会において、余暇がどのような意味を帯び、われわれに対してどのような対応を迫りつつあるのかについて考えてみたい。参考文献などは、教場でその都度指示する。

教育心理学Ⅱ 2単位

野 嶋 栄一郎

教授(instruction)=学習(learning)=評価(evaluation)の3つのプロセスを中心に授業を進める。教育の科学研究を至向した時、教育心理学は従来の教育心理学の枠からはみ出ることがある。このはみ出る部分を大事にしたい。

テキスト 入門教育心理学（波多野謹余夫、久原恵子著）有斐閣

環境心理学Ⅰ 2単位

佐 古 順 彦

レストランでの食事、図書館での学習、コンサートの音楽鑑賞などのように、場所と行動との間には一定の対応関係がみられる。「行動場面」の理論（「生態心理学」）と行動場面の調査法を学習する。また、場所や環境と行動との関係を分析した生態的な研究を紹介する。

造形心理学 2単位

佐 古 順 彦

人々のさまざまな生活場面に存在する形作られたものについての人間の知覚、感情、行動の研究を概観する。絵画の心理学、実験美学、形や色彩の知覚、空間と運動の知

覚、美や愛着等の感情や心理的評価、ものとパーソナリティの関係について考えてみる。また、造形物と空間についての心理的反応の測定を試行してみる。

組織心理学 2単位

松本 芳之

組織心理学とは、産業心理学の中で、特に集団や社会体系に強調をおいたものである。こうした理解が必要であるのは、組織に属する人々の様態が、結局、組織のあり方に依存するからである。しかし、組織心理学の目的は、個人の理解にとどまるものではない。組織活動を営む中で、独自の問題が生じる。これらの問題の理解こそ、組織心理学の目的とすることところなのである。組織についてのさまざまな理論や研究方法は、こうした困難を扱う中で生みだされたものである。そこで、本講義では、それらの問題を振り返りながら、組織に対するいくつかの捉え方を検討するとともに、現在の我々にとっての問題点を考えて行きたい。

テキストは使用しない。参考図書については、講義の中で紹介し、また、資料は適宜配布することとする。

人間行動と環境 (医) I 2単位

黒田 勲

人間が置かれた生活環境について、異常環境下における人間行動から逆に地上環境での行動に与える基本的原理を考えてみる。

酸素および圧力についての地球史的観点から生物行動の推移について検討する。空間および時間環境については、リズム、時差、単調の問題、温度、湿度の特殊作業環境、重力および加速度に関する生体反応、光、騒音、衝撃、振動等の物理環境下での人間行動、放射能、一般的の中毒物質についての行動変容とパフォーマンスの限界、さらに人間社会環境条件が行動に及ぼす影響の原則について講義する。

人間行動と環境 (医) II 2単位

黒田 勲

生活環境における健康、作業環境におけるパフォーマンスに影響する因子について、仕事、仕事環境、人間関係、これらの管理を含めた外的要因、心理的および生理的ストレスサー、個人特性による内的要因、人間-機械インターフェイス、自動化等、安全人間工学の総合的観点から検討を加える。さらに緊急事態、強度ストレス環境、航空宇宙環境等の特異環境における人間行動を含めて講義する。

心理検査法 I 2単位

菅野 純

心理検査のなかでも、本講義ではパーソナリティ検査をとりあげる。

パーソナリティ評価の方法としては大きく、評定法、質問紙法、作業検査法、投影法などにわけられるが、卒業研究などでもよく使用される評定法と質問紙法を中心に講義を行う。作業検査法、投影法、描画や絵画によるパーソナリティ評価については

事例を中心に紹介する。

心理検査法Ⅱ (92年度休講) 2単位

行動検査法 2単位

坂野 雄二

人間の行動や情動(生理的反応を含む)を客観的に査定するための方法論や実験計画法,統計的処理等について,その基礎理論と実際について概説を行う。また,代表的な行動検査法に関しては,その実施と評価の方法について実習も併せて行いたい。

行動療法Ⅰ 2単位

坂野 雄二

学習心理学の原理を人間の情動や行動の変容に応用した治療技法体系が行動療法である。本講では,行動療法の原理,歴史,代表的な技法について概説を行い,行動療法の概略を把握するとともに,行動療法による臨床の基礎的な知識を習得する。使用する教科書および参考書は追って連絡する。

行動療法Ⅱ 2単位

坂野 雄二

行動療法の最近の動向である「認知的行動療法」の基礎と応用について概説するとともに,症例研究を通して,行動療法における「言語の機能」について論究する。また,行動療法の基礎となる「実験臨床心理学」の方法論について講義を行う。本講の受講者は,「行動療法Ⅰ」を受講していることが望ましい。テキストおよび参考書は追って指示する。

心理療法Ⅰ 2単位

門前 進

心理的な悩みを解決するために,心理療法が現実に応用されている。基本は人間理解である。現実にはさまざまな心理療法が行われているが,それぞれの心理療法にはそれぞれの人間理解の仕方がある。しかし,かなりの心理療法の人間理解の仕方には,多かれ少なかれ精神分析の考え方が入っている。それ故,精神分析的立場からの人間理解,悩みの理解について,考えていく。

それに続いて,伝統的な精神分析の方法ではなく,精神分析的な立場でのカウンセリングの方法である簡易分析の方法について,考えていく。

心理療法Ⅱ 2単位

門前 進

心理療法Ⅰの内容は,精神分析的考え方を基礎としたカウンセリングの方法である簡易分析であるが,心理療法Ⅱの内容は,イメージ療法を中心に据える予定である。心理学研究,心理療法の実践において,最近特にイメージに対する関心が高まってきている。そこで,この授業では,さまざまなイメージを用いた心理療法について,考

えていく。

学校カウンセリング 2単位

菅 野 純

幼年期から青年期にわたる子どもの精神発達とその障害（精神遅滞、自閉症など）をとりあげ、発達診断および治療教育の方法を考える。また、同時期に生じる不登校、いじめ、非行、摂食障害、自殺などの事例をもとに、子どもの行動の理解と援助の方法を考える。

比較文化論 2単位

谷 川 章 雄

異文化を理解する上でのひとつの方法は文化を比較することである。すなわち、われわれが異なる文化に接触したとき、まず行うのは彼我の文化を比較することである。本講では日本を含む東アジア及び東南アジアの食文化をテーマとし、その文化を比較しながら、彼我の文化のアイデンティティを追求してみることにしたい。偏見、先入観を排して文化を比較することの重要性を認識することが、本講の目的である。

栄養学Ⅱ 2単位

太 田 富貴雄

栄養素が不足したり量的に著しく不均衡な食事を長期間摂り続けると、発育期における成長・発達が害なわれるだけでなく、成人後でも新陳代謝や生理機能が障害されてさまざまな疾病をひき起す。本講義では、幼児期から老年期までの各年代における生理的特長と栄養摂取のあり方、栄養素の過不足による病気の特徴と治療食、成人病といわれる糖尿病・高血圧・心臓病などの病態と予防・治療のための食生活、感染性およびアレルギー性の疾患と食事の関係、および健康・体力の水準を高め長寿を享受する栄養上の留意点などについて述べる。なお、栄養学Ⅱの聴講にあたってはあらかじめ栄養学Ⅰを受講しておくことが望ましい。

人間工学Ⅱ 2単位

野 呂 影 勇

人間工学とは、使いやすさ、快適性を実現する科学であるとの考えにたち、事例の紹介を中心に講義を進める。講義項目：看護、トイレと台所、椅子、家庭電化製品、乗用車、テレビ会議、仮想現実空間等

テキスト別途通知する。

特論Ⅲ（法と社会と倫理） 2単位

木 村 利 人

本セミナーでは、現代社会における法の役割に焦点を合わせつつ、医学、健康、生物医学をめぐる具体的なバイオエシックスの事例（判別・立法・法案など）をとりあげ研究、調査し学習する。今年度は、死と死の過程に関連する倫理と法の問題を取りあげる。

死に関する基礎的な哲学・倫理・法学の文献を指定するのでこれについて読み、レポートを提出したり、更に、英語の文献も使用する。

成績の評価は、レポート、討論への参加度、発言の内容等を考慮して行う。

特論 IV (CULTURAL PLURALITY AND JAPANESE PERCEPTION) 2単位

ロバート・グレイ

A one-semester lecture course conducted entirely in English at an advanced level, aimed at preparing students for participation in a multicultural International society. Sociological components of the Japanese ideology will be discussed and evaluated. These include topics relating to racial homogeneity, the individual and the group, religion and nature, aesthetics, and social pragmatics. Each lecture will be followed by a seminar-style discussion in which all students participate. Evaluation will be based on either a 1,000 word English essay, or a class presentation, as arranged with the instructor.

Text: No prescribed text. Handouts will be given as required.

専門教育科目 (スポーツ科学科 必修)

スポーツ科学概論 4単位

山崎 勝男 他

スポーツ科学の入門として当該授業を実施する。諸君が2年次以降に選択履修することになる演習担当者14名が、それぞれの専門領域に従って講義する。講義の内容は、自然科学領域として：スポーツ心理学、精神生理学、身体運動の生理学、衛生学・公衆衛生学、スポーツ工学、バイオメカニクス、栄養生理学、運動学、体力科学と運動処方、体格・体力トレーニング：人文社会科学の領域として：スポーツ民族学、スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツ法学を予定しており、非常にスペクトルの広いスポーツ科学の概論となろう。この授業は2年次以降、専門必修科目に配当されている演習（Ⅰ，ⅡAB）を履修する上で、必要不可欠な重要科目と位置づけられるものである。授業への出席日数不足は、2年次以降の演習選択に支障が生じることを心されたい。

スポーツ社会学 2単位

宮内 孝知

スポーツは現代社会において極めて大きな、かつ、重要な意味を持つ社会現象である。それは一つの文化として大きな勢力を持っているばかりでなく、政治や経済と密接な関係にあり、それに社会学的理解の必要性和意義がある。本講義では、スポーツの社会的な意味と価値、その機能などについての基礎的理解を得ることをねらいとしている。

〔教科書〕：『スポーツ社会講義』（大修館）

スポーツ情報論 2単位

中条 一雄

情報化時代の今日、一瞬にして世界を駆けめぐる大量の情報に、スポーツ界は大きく影響を受けている。スポーツに対する選手や大衆の考え方、世間の目も、めまぐるしく変化しつつある。ス☆ーツと情報のかかわり合いを、次のような網目で追及してゆきたい。

- 1 スポーツの発達と情報の大切さ
- 2 真実とは何か。物を見る目の大切さ
- 3 情報と商業主義・企業、冠大会
- 4 情報とプロ・アマ問題
- 5 情報と政治権力。言論の自由
- 6 ニュースと解説・評論、ニュージャーナリズムの実際

- 7 情報の分析と利用・新聞の朝み方
- 8 情報の分析の実例
- 9 わかり易い情報とそのまとめ方、構成
- 10 情報としての体育学

スポーツ文化論 2単位

寒 川 恒 夫

スポーツを文化の問題として論じるために、以下の諸項目について講義をおこなう。

1. 文化の概念。
2. スポーツの概念。
3. 遊戯、ゲーム、体育、身体文化などスポーツに関連する諸概念とこれらの諸概念間の関係。
4. 未開・伝統的社会と現代社会における、全体文化とスポーツ文化要素（あるいはスポーツ文化複合）の関係の諸相。

〔教科書〕：『スポーツ人類学入門』（プランチャード、チャスカ共著、大修館書店）

スポーツ経営学Ⅰ 2単位

梅 澤 宣 雄

スポーツ経営学とは何か。その意義と、理論体系について、組織論、経営過程論、行動科学等に依拠しながら概説する。

社 会 調 査 4単位

宮 内 孝 和

寒 川 恒 夫

国・地方公共団体・企業などが、政策を決定するためには、国民や消費者などのニーズを把握する必要がある。

社会調査は、この世論や消費傾向などを探るための手段である。本講座では、調査課題と仮説の設定、統計的調査法、事例的調査法、などの理論を学習するほか、典型的な政治に関する世論調査、商品開発のための、いわゆるマーケット・リサーチなどのケースを取りあげて、実践をも学ぶ。

スポーツ心理学 2単位

上 田 雅 夫

スポーツ心理学の学問としての体系づけには、いくつかの立場がある。本講義では、心理学の科学的方法によって体育・スポーツ事象の諸問題がいかにとらえられるかを究明する立場をとっていきたい。主な問題領域としてはつぎのものを予定している。

- 1) スポーツ行動の本質、2) 運動・競技の適性、3) トレーニングの諸問題、4) 競技力について、5) 緊張異常とその対策。

バイオメカニクス 2単位

永 田 晟

多くの基本運動とスポーツ活動を工学、整形外科学、解剖学、生理学的な面から考究し、それぞれの運動メカニズムを講義する。運動現象の機構をわかり易く詳講し、運動方程式の演習をしながら実証する。バイオメカニクス上の基本用語を熟知し、スポーツ科学のスペシャリストとしての生体機構上の知識を学習する。

- (1) 基本運動の分類と人体解剖図
- (2) スポーツ活動時の骨・筋・靱帯、神経、血液の働き
- (3) バイオメカニクスの研究方法
- (4) 運動神経機構と神経支配（運動生理学）
- (5) キネテクスな解析例（運動力学）
- (6) キネマテックスな解析例（測定計量学）
- (7) 動きのエネルギー効率と競技力の向上
- (8) バイオ・フィードバックの応用（制御工学）
- (9) パワーの出し方と使い方
- (10) 各種運動方程式と生体工学の基礎
- (11) 周波数分析とフーリエ展開

〔教科書〕：『バイオ・キネテクス』（杏林書院）

体力トレーニング論 2単位

加 藤 清 忠

体力とは何かとの基本的な理解の上に、体力養成ムーブメントの歴史的背景や現況に触れるとともに、体力の維持と向上に必要なトレーニングの原則や具体的な方法について解説する。実技実習ではウェイトトレーニングやサーキットトレーニングを中心に行なう。したがって、一般的にバーベルやダンベルを用いたトレーニングを行うが、必要に応じマシンによるトレーニングをも実施したい。また体力測定を行なう。

テキスト：『トレーニングマニュアル』（前野書店）

演 習 I（スポーツ心理学） 4単位

児 玉 昌 久

スポーツ心理学は、スポーツ活動に関して基礎科学である心理学を適用、実践していく科学領域である。そこでは、直接、間接を問わずスポーツに関わる人間の行動の全てが対象となりうる。

課題に対する取り組み方はきわめて自然科学的であり、思考法、発想法も、自然科学的な態度が要求される。

スポーツ心理学の研究を進めて行くために必要となる、心理学的思考法の理解を深めるため、研究方法を課題の中心にする。

トピックスは心理学の主要研究領域である学習、知覚・認知、動機・欲求、人格、情動、更に社会心理、臨床心理などにわたり、観察、検査、実験など諸方法の実験計

画法，測定方法，資料解析法について行うため，また，課題ごとのレポートや発表が課せられるため，かなり負担が大きくなることが予想される。

文献の輪読と実験実習とを併行していくが，特に後者の比重が大きいため，授業への参加が重視される。精神生理学的測定法のマスターが必要なので，「精神生理学及び実習」（山崎教授）を履修していると大いに役立つであろう。「測定・評価論」もこの演習を行って行く上で大変重要な意味をもっている

演 習 I（精神生理学・心と身体のスポーツ科学）4単位 山 崎 勝 男

プレッシャーを感じ過ぎると緊張して体は硬直し，喉はカラカラ，心臓はドキドキ，手掌にじっとりと汗をかく，いわゆるあがりの現象が生じる。このようなときに良い競技成績をあげることは期待出来ない。スポーツ科学における精神生理学：心と身体の因果関係を解明する学問は心理的なプレッシャーに対して，どのような身体の変化が生じるかを客観的に調べ上げると共に，過剰な身体変化の防止対策と最適な緊張水高へ自己コントロールする方策を明らかにして，現実場面への適用を示唆することである。授業では，心理学的な方法論とこの学問に関わる生理学的な方法論を含めた演習を中心に展開し，同時にこの学問に関連する内外の論文を輪読して，この学問をスポーツ科学的に位置づけたい。精神疲労，時差ボケ，睡眠，動機づけ，学習，性格等についても演習の課題としたい。

演 習 I（運動と代謝）4単位 村 岡 功

本演習では，運動生理学に関する専門書（英文）を輪読しながら，運動を生理学的に把握するとともに，運動生理学およびスポーツ生理学における基礎的な測定技術を習得する。

演 習 I（スポーツ人類学）4単位 寒 川 恒 夫

スポーツ人類学についての基礎的演習をおこなう。スポーツ人類学は，未開社会と伝統的社会（それに一部は現代社会）のスポーツ（遊戯，ダンス，ゲーム，運動競技などを包括する広義のスポーツ）を文化人類学（民族学，民俗学）の方法によって研究する分野である。本演習は第3年次演習のための基礎の性格を有するため，その主要目的は，日本と諸外国のエスニックススポーツとその文化的背景について幅広い知識を得ることに置かれている。この目的を達成するために演習は次の2つの方法によって進められる。1つは内外のスポーツ民族誌資料の講読と映像資料の分析であり，他の一つはフィールドワークの実習である。フィールドワークは特定村落に数日間宿泊して，その地に伝承されるエスニックススポーツの採録に当たるもので，採録は，当該スポーツの当該社会における文化的意味を解説すべく，文字とカメラ・ビデオ等映像機器とによっておこなわれる。

演 習 I (スポーツ社会学演習) 4単位

宮内孝知

スポーツ及び社会科学に関する文献をできるだけ広く講読し、スポーツの社会学的理解に必要な基本的態度や知識を高める。いわば、社会とスポーツの関係を様々な角度から検討しながら、「スポーツ社会学とは」という問題に、自分なりに解答を得られるようになることをねらいに演習をすすめることになろう。

従って、幾つかのサブグループに分かれての検討・発表なども一つの方法であると考えている。

演 習 I (衛生学演習) 4単位

町田和彦

将来、研究活動、国内・国外の保健活動(行政)および環境や健康科学を生かして、各種企業に進むことを希望する学生が、そのため最低限度の研究および活動の進め方(問題解決能迷)と実験の手技を身につけられるようなトレーニングをおこなう。

今年度より演習の内容を次の2コースに分ける。

Aコース：健康問題および環境問題について講義、ビデオ、抄読会などを通じて理解を深める。授業時間はほぼ規定どおり1コマで終るコース。

Bコース：今迄どおり実習を主体とするコース。Aコースの時間にひきつぎ、さらに演習Iでは1コマ、演習IIでは2コマ程度時間を延長して衛生学・公衆衛生学に必要な実習を行う。将来大学院進学者、公務員、出版・マスコミ関係、食品・薬品会社、あるいは各企業の厚生課等に就職を希望する人、または、衛生管理者、健康運動指導士等の資格を希望する人はこのコースを選択することが望ましいと思われる。

前期は衛生学・公衆衛生学の解説。一太郎(ワープロ)、HALBAU(統計)を用いたパソコン実習を主とし、他に人体の構造と機能、動物の取り扱いと解剖実習等をおこない、後期は基礎的な実験方法の実習、血液学実習、尿中成分の分析等演習IIでおこなう実習の基礎実験を主におこなう。

本演習を希望する学生は選択科目の衛生学、公衆衛生学、学科共通選択科目も含め、できるかぎり多くの医学関連科目を履修することが望ましい。また、衛生物学・公衆衛生学の内容は非常に多岐にわたり、演習IおよびII>多種類の実習項目をおこなうことになるが、ここで出来る内容には限度があるため、将来、多少なりとも専門を生かした職業を希望する人の大学院進学を歓迎する。なお、演習Iは月曜3限を使っておこなう。選択にあたっては演習IIの内容を必ず読んで選択すること。

演 習 I (スポーツ工学) 4単位

比企静雄

この演習では、まず、人間の運動機能に関係する体格・体力や動作の特性を観測・記録して分類・評価するための、多面的な測定方法を取り上げる。そして、このために使われる計測機器・システムの動作原理と操作方法や、電子計算機の利用による、測定データの処理や、画像解析や、運動のシミュレーションのためのモデル化の手法

などについて学習する。

このようなスポーツの工学的な研究の基本になるのは生体工学であるが、必然的に、人間の筋肉・神経系についての医学の分野での研究とも結び付いてくる。また、スポーツによって起きる障害のリハビリテーションも、重要な研究の対象になる。そこでこの演習では、スポーツ工学と並行して、リハビリテーション工学の立場から、人間の感覚機能・運動機能に一時的・長期的に起きる障害に注目して、障害の検査方法や、機能の修復・代行の可能性や、機能回復のための訓練の効果などについても、種々な側面から取り上げる。

演 習 I (スポーツ経営学) 4単位

梅 澤 宣 雄

スポーツ経営学の基礎理論を理解することが出来るよう、先行論文・資料等に関する文献研究を中心に研究討議を行なう。特に、スポーツ経営学の基礎理論を、学校体育としてのスポーツ経営、地域や職場におけるスポーツ経営、商業スポーツ施設（スイミングクラブ、テニススクール、リゾートスポーツエリア等）の経営、競技スポーツの集団（チーム）の経営等の各領域にどのように活用したらよいか、という視点を常に意識しながら、より正確に、より深く理解できるようにする。また、経営調査（診断・評価）の技術を身につける上で必要な、基礎的準備についてもこの演習のもう一つの柱とする予定である。

なお、テキスト・参考書等については、授業の初めに指示する。

演 習 I (スポーツ法学演習) 4単位

濱 野 吉 生

この演習は、スポーツ法学の全体を把握するとともに、その研究手法を習得することを目的として進めていく。

したがって、授業の前半は、スポーツ法学そのものの理解に重点を置き、後半は、報告・討議を交えつつ、具体的な事例・判例を取り上げていきたいと考えている。

参考書等については、授業中に指示する。

演 習 I (バイオメカニクス) 4単位

鈴 木 秀 次

バイオメカニクスとは、生理学・解剖学・力学などの基礎知識を活用して身体運動の仕組みをより良く理解するための応用学である。巧みな運動、速い運動、強力な運動、自然な運動、効率の良い運動、美しい運動等の運動中の科学的根拠を見つけ出すことを目標とする。この演習ではI、IIを通じてその科学的根拠を見つけ出すための3つの基礎知識、すなわち、生理学、解剖学、力学をしっかりと学ばせたい。演習Iでは、主に、身体運動に係わる生理学、解剖学を、特に、骨格筋の構造と機能について、講義と実習をまじえて授業を進めて行く。

7月下旬に、高地における身体運動へのバイオメカニクスの影響についての体験実

習を、そして11月下旬には他大学医学部への解剖学実習の見学を予定している。

演 習 I (栄養生理学) 4単位

太 田 富貴雄

本演習は、栄養学の基礎から応用に至る幅広い知識を、スポーツ活動や健康管理などの実践面に役立つよう実習を通じて身につけ、さらに食生活・栄養と体力、健康、疾病の関係についての卒論を作成する際に必要な技術および方法等を習得することを目的にしている。具体的には、ビデオ、分子模型、配布資料を用いての基礎および応用栄養学に関する基本事項の解説、英文テキスト（スポーツ栄養学）の講読（前期）、パソコンによる食物調査をもとにした栄養診断と統計処理、計量器の取り扱いや規定液の調製など化学分析の基本操作法、食品試料中のタンパク質、炭水化物、ミネラル、ビタミンの定量（後期）を年次計画に基づき実施する。なお、受講生は栄養学ⅠおよびⅡの履修が望ましい。

演 習 I (運動学演習) 4単位

塚 脇 伸 作

運動学（運動形態学）は、各種スポーツの運動形態（運動フォーム）の成立と変化に関して研究する学問である。各種スポーツの技術の把握、そしてその習得・習熟、即ち荒削りのフォームから技術的に洗練されていく発展を通じて、その運動の特性を明確にしようとするものである。

このような運動学の立場から各種スポーツにおける運動特性、運動発達、運動類系、運動方法について理解することにはじまり、次のような順序で演習を行う。

1. 運動学に関する問題意識喚起のための話題提供とその討議を行う。
2. 国内外の文献収集とその講読を通じて現状を把握し、運動学的考察を行う。
3. 運動学的研究法の手順とその実践を行う。
4. 各自の運動学的研究課題設定への準備を行う。

演 習 I (体力科学と運動処方) 4単位

永 田 晟

スポーツ科学のうちの体力医学、運動学、健康診断学、運動処方学、スポーツ医学、生理人類学、コーチング学、スポーツ心理学などの基礎的な学問分野のベーシックな研究方法を教授し、オールラウンドな科学的で客観的な実験手法を学習する。この方法を学ぶためには実際に各種スポーツを実施し、運動が生体に与える効果と問題点を各自が体験し計測する必要がある。その後に実習室において動きを再現し、スポーツ刺激による生体応答や反応を科学的に記録し、処理する方法とアタックする態度を学んでいく。本演習では、実際に身体運動をおこない、実際にゲームをおこなって発汗する必要がある。

以下に代表的な演習項目を羅列する。

- 1) 日常生活行動（ADL）の観察と記録、2) ADL の可動範囲と生体解剖、3) エア

ロビックエクササイズの実施とその問題, 4) 有酸素運動の生理機構, 5) ラケット, バット・スポーツなどの用具と人間の整合性, 6) 回内・回外運動などのスポーツ医学と障害, 7) フィットネスの運動プログラム, 8) 健康・体力レベルの測定・検査法, 9) ランニングのプログラムと生活処方, 10) 肥満の意味と水中体重法の測定, 11) アクア・エクササイズの実施(流れるプール), 12) 密度・比重と血圧・心電図などの記録, 13) 疲労とストレス解消法(積極的休息法), 14) スポーツ権と健康・体力づくりの方法。

演 習 I (体格・体力とトレーニング) 4単位 加 藤 清 忠

本演習では、体力問題やトレーニング演習への前段階として、まず広くからだの形態についての理解を深めることを主要な目標としたい。特に筋力や筋力トレーニングの理解には不可欠である運動器官系に関する学習を中心として行い、その成果を演習IIにつなげていきたいと考える。具体的な演習内容として、前半では、お互いによる生体観察や生体計測を実施することによって、運動器官系に加えて、体格や体型さらに身体のプロポーション等について学習する。後半では、人間の全身骨格標本のスケッチを通して骨標本の観察を行うとともに、その他関節・筋・神経・血管・内臓等に関しても概論的に学習する。そして最後には、医科大学において人体解剖の実習標本による観察実習を実施する予定である。

なお、本演習を希望する者は選択科目の「身体形態学」を履修することが望ましい。

演習 II A・B (スポーツ心理学) 2単位 児 玉 昌 久

演習II Aでは、演習Iであつかった基礎的問題を発展させ、実践的に応用することを試みてゆく。運動学習、チームワーク、ストレス・マネージメント、イメージトレーニング、メンタル・リハーサル、コンディショニング、リラクセーションなどの、スポーツ場面におけるトピックスについて、その問題を構成する要因の分析と、そこに用いる方法の選択やその効果の測定方法などを、モデル実験によって検討すると共に、種々の文献と比較研究する。

演習II Bは4年次の履習のため、卒業研究と平行して行うことになるので、とりあげる課題は各自別々に、卒業研究に結び付く研究テーマを設定する。研究方法、実験デザインなどの検討、実験器具の操作の習得、結果の処理・分析方法の吟味・習得、論文のまとめ方など、演習I、演習II Aで経験してきたことのまとめを行い、科学的思考法を充分にマスターすることを目指す。

演習 II A・B (精神生理学・心と身体のスポーツ科学) 4単位 山 崎 勝 男

「演習I」で学習した基本的事項をさらに深く追及する。そしてこの研究領域の主要テーマに関する広範な文献研究を行い、現在の国際的な研究動向も同時に探ること

を当演習の目的としたい。受講者は文献研究に参加して、文献紹介及び報告の役目を随時に担う。これらの経験を基礎として、受講者は各自の興味にしたがった実験研究計画を立案・企画し、受講者自らが実験者になって、比較的短期間の実験を行う。ここで得られた実験結果を各自が分析してレポートしてもらう。本演習は卒業論文研究の予備的な性格が濃い。当然真面目な受講態度が要求されよう。当演習でマスターした研究方法を基盤として、4年次の卒業論文への発展、展開してもらいたいと考えている。

演習 II A・B (運動と代謝) 4単位

村 岡 功

「演習 I」の活動を基礎として、ここでは特にエネルギー出力に焦点を合わせ、その実験技術を演習する。また、継続して英文の輪読を行うが、「演習 II AB」では各自の卒論の研究テーマと関連の深い内外の論文を渉猟し、その内容を発表する。

演習 II A・B (スポーツ人類学) 4単位

寒 川 恒 夫

スポーツ人類学の理論についての演習をおこなう。一世紀の研究史をもつスポーツ人類学は、これまでに、進化論、伝播論、機能論、構造-機能論、解釈論、象徴論などさまざまな理論から接近された数多くの論文・著書を有している。本演習では、こうした論文・著書の講読を通して、スポーツ人類学の主要な諸理論について理解する。あわせて、卒業論文の作成に必要な研究方法についても学ぶ。フィールドワーク実習は第二年次に引き続きおこなわれる。

演習 II A・B (スポーツ社会学演習) 4単位

宮 内 孝 知

内外のスポーツ社会学の論文を広く読みながら、スポーツの社会的理解を深めるとともに、基本的な研究方法の演習をする。また、この「演習 II A・B」を通じて、多岐にわたるスポーツ社会学の研究領域から、自分の研究テーマを具体化していくことも必要であろう。

〔参考書〕：『体育・スポーツ社会学研究』（道和書院）、『Sport and Social Theory』（HUMAN KINETICS）、SSJ、IRSS 所収の論文等

演習 II A・B (衛生学演習) 4単位

町 田 和 彦

演習 I で身につけた基礎的知識と実験手技をさらに充実させるとともに、研究能力の育成に重点をおく。前期は水質検査、空気の物理・化学的性質に関する実習、細菌学実習、ウイルス・免疫学実習等の実習を主に行う。

後期は、感染症の疫学のペーパーシミュレーション、栄養学実習、疲労・体力測定・代謝機能の測定等体力医学実習、組織培養細胞実習と各細胞に与える重金属の毒性実習を行った後11月後半より卒論について考えていく。

なお、演習Ⅰ、ⅡAとも各休み中（夏、冬、春）には衛生・公衆衛生関連テーマについての英文和訳と本の抄読のレポート提出をおこない、一層の理解を深めるとともに、実習の前にはそれぞれに関連した話題について、ビデオ又はスライドを中心とした講義をおこなう。なお演習ⅡAのAコースは火曜日2時限のみ、Bコースは火曜日2時限から3時限迄（時には4時限迄）かかることが多いので3時限、4時限の科目や活動をさけることを希望する。

演習ⅡBは金曜日2時限に主に行い、その内容は卒論指導が中心になる。

演習Ⅱ A・B（スポーツ工学） 4単位

比 企 静 雄

演習Ⅰの内容を継続するが、生体工学の手法を底流としたこれらのスポーツやリハビリテーションの学際的な研究の過程で浮び上がってくる周辺の分野での研究課題、とくに、障害を補うための視覚・聴覚・触覚の併用や、人工の視覚・聴覚のような新しい感覚の活用や、人工の音声や、指文字・手話などの代償的な言語などのような、人間の感覚を通じての情報処理の本質に触れる多くの問題も取り上げる。また、障害という特殊な対象に焦点を絞った研究の手法を、逆に正常な対象に拡張して適用することによって、感覚機能・運動機能の向上を計るという一般的な研究課題に還元できることにも注目する。

演習Ⅰ・ⅡA・Bを通して、このような範囲内で年度によって適当な項目を選んで、講義・実習・見学などを組合せて学習を進める。なお、所沢スポーツホールのリハビリテーション室でのスポーツ障害の検査と機能回復訓練のプログラムも、この演習に取り入れる。

演習Ⅱ A・B（スポーツ経営学） 4単位

梅 澤 宣 雄

スポーツ経営の実践領域である、学校、地域、職場、スポーツ施設等に関する経営学的研究に資料を求めながら、スポーツ経営の理論体系について学習することを基本的なねらいとする。同時に、演習Ⅰにおける学習をもふまえて、ここでは経営調査グループを組織して実際に調査を行う予定である。すなわち、目標の設定、調査計画の立案から、調査票の作成、調査の実施、結果の処理、まとめといった一連の具体的な作業が予定されている。さらに、このような経営調査（実態調査）と、スポーツ経営学の理論を高めたり、確かめたりするための研究との違いや、その関係についても十分な理解が得られるよう配慮する。そのことが、次年度の卒業論文への取り組みにとってたいへん重要であると考えからである。

演習Ⅱ A・B（スポーツ法学演習） 4単位

濱 野 吉 生

この演習は、「演習Ⅰ」（スポーツ法学演習）を踏まえ、報告・討議を交えながら、スポーツ法学のより高度な理解と研究手法の習得を目的として進めていく。

参考書等については、授業中に指示する。

演習 II A・B (バイオメカニクス) 4単位

鈴木 秀 次

演習 I での基礎知識に加え、ここでは身体運動の仕組みについて講義と実習によって説明する。前半は、運動と力の係わりについて講義中心で授業を進める。「運動」では、位置－速度－加速度、線運動と角運動、加速度と筋活動、歩様のキネマティックス、投射物体の運動等について、「力」では、ニュートンの運動の法則、外力の係わり、トルク等について講義する。

後半は身体運動の分析の方法について実習中心で授業を進め、卒業論文作成に結びつけた授業を行う。

テキストとして、Roger M.Enoka の *Neuromechanical Basis of Kinesiology (Human Kinetics. 1988)* を使用する。

演習 II A・B (栄養生理学) 4単位

太 田 富貴雄

栄養生理学は、食物摂取や身体活動に伴う生体の代謝ないしは生理機能の変化と適応の仕組み、および栄養の摂り方が体力や疾病にどのような影響を与えるかを解明する学問である。本演習では、栄養生理学的立場からの調査・研究に必要な専門的知識と測定または化学分析の技術を習得し、更には卒業論文の作成に役立つように、以下の項目について実習ないしは解説を行う。

演習II Aでは、コレステロール・鉄など各種血液成分の比色定量、エネルギー消費量の測定原理と実測及び食物成分の生理機能と栄養価を調べる動物実験(ラット使用)を行う。演習II Bでは、栄養とスポーツや健康に関する原著論文(主として外国雑誌)の講読と討論及び卒業論文の経過発表を行う。

演習 II A・B (運動学演習) 4単位

塚 脇 伸 作

「演習 I」(運動学演習)に引き続いて、一層の充実を図るために次のような演習を行う。

1. 各自の研究課題を設定し、そのための文献収集とその考察
2. 各自の研究課題に応じた研究法の実際による記述資料作成とその考察
3. 各自の研究課題の研究報告とその討議
4. 反省と卒業論文作成のための準備

演習 II A・B (体力科学と運動処方) 4単位

永 田 晟

スポーツ科学は古典的な学問分量を基礎とした総合的な境界領域の人間科学の一つである。この観点に立ってスポーツ科学は人間生活にいかに関与し、役立つかの具体的な方法を教授する。スポーツ科学者としての資格と能力を陶冶できるように配慮し、

スペシャリストとして成長することを期待した演習である。演習Ⅰを基本として、応用科学をマスターする。他学問領域の研究手法も参考にしてカイロプラクテックスやマッサージなどの方法を実習する。

以下に代表的な演習項目を羅列する。

1) 加速度計による運動量の測定, 2) カロリー消費量の計算と肥満対策, 3) コンピュータ・オンライン・システムの作成(床反力など), 4) スポーツ・スピリットの分析, 5) 運動負荷試験のやり方, 6) メディカル・チェックの方法, 7) 生体の電氣的現象の記録(EOG, EMG, EEG, ECG, GSR など), 8) スポーツ姿勢と構え(重心軌跡), 9) 運動エネルギー示性式(三次元運動方程式)と3方向のビデオ写真解析, 10) 生理的な限界と心理的な限界, 11) トレーニング法と健康・運動処方, 12) スポーツ・マッサージとカイロプラクティス, 13) ウィンター・スポーツと障害予防, 14) 企業フィットネスとメディカル・フィットネス, 15) スポーツ障害の克服法と競技への復帰法, 16) ハンディキャップ者との交流(養護実習)

演習Ⅱ A・B (体格・体力とトレーニング) 4単位 加藤 清 忠

演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ身体の形態に関する基礎知識を踏まえて、われわれの体力に関する問題や体力を鍛えるためのトレーニング法について理解を深めていきたいと思う。また、卒業論文との関連において、文献講読を通して研究課題や研究方法について学びながら、各自の卒業論文のテーマや作成方法についての議論をすすめていくつもりである。具体的には、まず演習ⅡAでは、体力診断システムによる体力測定、Cybex Machineによる筋力測定とトレーニング、トレーニング中の生体機能測定、Aerobic Training等各種の実習を実施する。演習ⅡBでは、文献講読や各自の卒業研究の問題点を議論する予定である。

専 門 教 育 科 目 (スポーツ科学科 選択)

社 会 構 造 論 2 単位

長 田 政 一

社会構造は、一方で人びとの行為によって支えられながらも、地方では人びとの行為を水路づけるという意味で、個人やその行為に還元されない独自の存在である。それは通常、役割、集団、制度、階層、体制などの諸レベルにおいて把握され、それら相互の関係や変動の要因およびメカニズムなどが社会学の重要なテーマとなっている。

本講では、集団構成や階層などにとくに注目しながら、現代社会の構造的特質について考察してみたい。参考文献などは、教場にてその都度指示する。

スポーツ経営学Ⅱ 2 単位

梅 澤 宣 雄

「スポーツ経営学Ⅰ」が、経営理論全般に亘る概論であるのに対し、この科目は、専ら学校におけるスポーツ経営（体育経営・管理）の問題に限定するものであり、いわば各論（領域論）の一つであるといえよう。従って、この科目を選択履修する者は、あらかじめ、「スポーツ経営学Ⅰ」を修了していることが望ましい。

コミュニティ論 2 単位

岡 野 静 二

まずコミュニティとは何かを、基本的に理解する。そして日本にふさわしいコミュニティの概念を把握する。その概念にてらして、日本の過去の地域社会に存在していたが現在失っているもの、現在の地域社会で始めて得たものなどを考える。そしてコミュニティ形成に必要な条件とは何かを知る。行政の役割、住民運動、ボランティア活動などについて、現状を把握し、それらの意義と役割について明らかにする。

スポーツ法学 2 単位

濱 野 吉 生

ここではまず、スポーツ法学の基礎理論と構造について説明し、次に、スポーツ法学が直面している具体的な問題を適宜取り上げていきたいと考えている。

参考書については、授業のはじめに指示する。

スポーツ行政論 2 単位

深 川 長 郎

1. スポーツ行政のねらい。2. 日本のスポーツ行政の現状。〈国および地方におけるスポーツ行政。〉 3. 世界のスポーツ界の組織と行政的とのかわりについて。4. スポーツ関連の諸法規等と行政との関係について。5. オリンピック憲章、アジアオリンピック評議会憲章、国際大学スポーツ連盟憲章等とこれに関連した行政について。

6. ユネスコ等国際的諸機関のスポーツ行政への影響について。7. 将来のスポーツ界への行政的取り組みについて。以上の現状をふまえて考察を進める講義内容とする。

公衆衛生学(旧公衆衛生学Ⅰ) 2単位

町田和彦

衛生学の講義要項でのべたごとく、衛生学と公衆衛生学の区別は難しい。そこで公衆衛生学は衛生学で一応基礎的な衛生・公衆衛生学的な知識を身につけた学生が、実際に地域住民の中に入って保健指導をおこなううえでの重要な知識や方法論を身につけられるような講義内容をもつ。その意味では、公衆衛生学だけの選択はさけ、衛生学を必ず選択してほしい。

内容は、疫学、母子保健、成人保健、産業衛生、地域保健、人口問題、衛生統計、衛生行政、衛生法規等を予定している。

教科書は衛生学と同様、『簡明衛生公衆衛生』平成2年度改訂版(南山堂・菊地正一他)を使用する。

生 理 学 2単位

村岡功

生理学は極めて広い分野を包括するものであり、ライフサイエンスの基礎学問の一つである。ここでは一般生理学の基礎を講義するが、目や耳から入った情報がどのようにして脳に送られるのか、脳から筋肉へどのようにして指令が送られるのか、等の疑問に答えながら、生物としての人間、即ちヒトの生命活動の基本現象を捕えることとする。

衛 生 学 2単位

町田和彦

病気を治療する臨床医学に対し、病気を予防し、健康の維持増進をはかる学問として、衛生学、公衆衛生学がある。今日、この二つの学問は明確に区別できないが、歴史的過程からいって、日本では衛生学は環境衛生、感染症、栄養・体力医学等実験室内でおこなう研究が多いのに対し、公衆衛生学は地域医療の諸問題(母子保健、学校保健、成人保健、精神衛生、産業衛生等)や人口問題、衛生行政等、直接地域住民の中に入り、健康問題の改良にとりくむ研究が多い。しかし内容的にみてその両者を分けることは難しいため、本学の衛生学では、なるべく多くの衛生、公衆衛生学上の考え方や知識を身につけるため、衛生・公衆衛生の歴史、衛生・公衆衛生学(保健学)の医学の中に占める位置と重要性、環境衛生(公害を含む)、感染症、栄養学等を中心に講義を進めていく。

教科書は当分の間、『簡明衛生公衆衛生』(南山堂・菊地正一他)を使用するが、平成2年度より改訂版となったため、それ以前のものは使用できないので注意すること。

運動生理学 2単位 (91年度生必修となる)

村 岡 功

運動と関連深い生理的機能は、主に運動を支配する神経系および内分泌系、運動を発現する骨格筋系、ならびに運動を持続する呼吸循環系である。

ここでは、これら生理的諸機能に焦点を合わせ、一過性の運動ならびにトレーニングによる影響について言及する。

なお、この科目を履修するにあたっては、前期に「生理学」を履修するか、各自で生理学の基礎を理解しておくことが望ましい。

運動制御論 (バイオメカニクスⅠから名称変更) 2単位 鈴木 秀 次

目的にかなうように運動を調節する神経機構を運動制御機構という。合目的な運動を行うためには、中枢神経系から目的に応じた運動指令を発するとともに、運動の結果が中枢神経系にフィードバックされて、反射的に調節されることが必要である。ここではスポーツ活動での身体運動に係わる神経系の調節機構の基礎となる随意運動と反射運動について概説する。大半の授業は、脊髄・末梢神経レベルでの運動制御について説明する。

キーワード：アルファ運動ニューロン、運動単位、筋紡錘、感覚終末、伸張反射、ガンマ運動ニューロン、ガンマループ、アルファ・ガンマ共同活動、神経筋活動の可塑性。

身体形態学 (解剖学を含む) 2単位

加 藤 清 忠

ヒトのからだは「小宇宙」とであると言われるように、複雑で難解なものであるが、本講座では進化の道筋を通してからだの歴史を辿るという「原形態論」の観点から、その理解を少しでも深めていきたいと思う。したがって、中心テーマとなる骨や筋の運動器官系も、上記形態論の一側面である比較解剖学的立場から話を進めることになる。また、ヒトの運動とか姿勢に関しても、からだの基本の構造や姿勢、ロコモーション等についての人間の特徴から概説していきたい。

なお、テキスト・参考書については、授業中に指示する。

リハビリテーション 2単位

比 企 静 雄

人間の感覚機能や運動機能に一時的あるいは長期的に起きる障害に注目して、障害の検査・診断の手法や、機能の修復・代行の可能性や、機能回復訓練の効果について、基礎的な知識を解説し、障害の検査・診断に使われる機器や、機能の修復・代行のための補装具や、機能回復訓練のシステムなどについても、技術的な進展を紹介する。あわせて、リハビリテーションにおけるこれらの医療技術と障害者の教育環境や福祉体制との係わりについても、問題点を指摘する。(具体的に材料として取り上げるのは、視覚障害および聴覚障害だけになる予定である。)

なお、これらに先立って、リハビリテーションの基本的な理念についても、様々な角度から検討してみる。

精神生理学及び実習 3単位

山 崎 勝 男

精神現象の生理学を実験実習を通して学習する。精神生理学で多用されている脳波、眼球運動、心拍、呼吸、脈波、皮膚電位活動、筋電図などのそれぞれの指標を、実習を通して解説しながら、まずはじめにこれらの生理的な指標の基本的測定法を完全に習得してもらう。次に当方で準備した実験手続書に従って実験実習を各自にもらう。半期集中型の授業なので、解説－実験実習－レポート提出のサイクルを数回くりかえすことになろう。レポート提出毎に個人別講評を行う。実験実習が授業の中心をなすので、受講者には積極的な受講態度が要求されよう。実習のメインテーマは、生体リズムの観察、注意、定位反応と慣れの理解を考えている。スポーツ行動の背景をなす「心」と「身体」の接点に興味を持つ受講者を歓迎したい。

音楽理論・実習 2単位

大 池 美智子

講義では、さまざまなジャンルの音楽に目を向け、広い視野からとらえた音楽と、スポーツやダンスとの関係について概説する。

実習では、次のような内容を予定している。

1. リズム・トレーニング
2. 鑑賞によるイメージ・トレーニング
3. レクリエーションのための合唱と合奏
4. やさしい打楽器の奏法と応用法
5. 動きのための「音」えらびと「音」づくり

学校保健 I 2単位

坂 口 早 苗

学校保健は、保健管理と保健教育に大別される。保健管理は、主に学校保健法にもとづいて行われる管理活動であり、保健教育は主として学校教育法にもとづく教育活動である。

講義内容は、 1. 学校保健概論 2. 健康診断 3. 学校伝染病 4. 学校環境基準 5. 学校安全 6. 保健教育（概要）である。

スポーツ工学 I 2単位

池 原 義 郎

学校・職場・地域社会などにおけるスポーツの競技あるいはトレーニングのための各種の施設について、競技者と観衆との両方の立場から必要とされる構造や機能を、建築工学的な種々な観点から、実例を参照しながら解説する。

また、スポーツのトレーニングに用いられる機器や、各種の競技に必要なスポーツ

用具について、その使用方法や使用効果の問題点を、人間工学的な見地から検討する。

スポーツウェアについても、夫々の競技の種目に必要とされる運動機能性を実現するために、設計・評価において考慮されるべき要素を、身体形態学、材料工学、デザイン工学などの種々な面から分析して説明する。

スポーツ工学Ⅱ 2単位

比 企 静 雄

スポーツという対象に適用される工学的な研究の手法は、応用物理学、機械工学、電気工学、建築学、生体工学、人間工学などの多様な学問分野にわたっているが、このスポーツ工学Ⅱでは、まず、人体の内外から加わる力の作用を解析するために必要になる力学あるいはバイオメカニクスの基礎的な概念を説明する。そのうえで、計測工学あるいは情報工学の立場から、人間の運動機能に關与する体格・体力や動作の特性を記録して分類・評価するための、多面的な測定器具・機器・システム、および、電子計算機の利用による、測定データの統計的な処理や画像解析や運動のシミュレーションのためのモデルなどについても紹介する予定である。

〔スポーツ科学科の専門教育科目の「スポーツ工学Ⅰ」の内容と相補うものである。〕

スポーツ方法論・実習Ⅰ（体操） 2単位

中 村 茂

体操は身体のいろいろな要素や作用をよりよくするための身体運動との見解と、同時に他のスポーツや体育運動の基本となる身体運動としてとらえらるとともに、他面にはリズムをともなった身体運動表現の美、よろこび、楽しさなどの付加特性を活かした方向を考慮した予習内容を設定してみた。

運動の構成要素の分析、運動処方方の検討と、器材、器具の活用。

ボール、縄などの手具利用。

組み運動。

タンプリング運動。などの実技展開を試みたい。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（陸上） 2単位

佐々木 秀 幸

陸上競技は生み出された力とスピードを、いかに技術によってコントロールするかにある。このことを主としてバイオメカニクスの分野で解析しながら、実習においてはその科学的知識を応用して競技力の向上を体験する。

これらの実習をとおして、将来スポーツ指導者として活用できるトレーニング法、コーチング法を習得する。

スポーツ方法論・実習Ⅱ（陸上） 1単位

佐々木 秀 幸

実習Ⅰから更に発展して、歩・走・跳・投のそれぞれの陸上競技種目の基本技術とその関連を実習によって体験し、各種目への展開とその方法についての具体的な検討

特にトレーニング・プランの立案と実践を重点とした講義と実技を展開して行く。

(バレーボール)履修者は、スポーツ方法論・実習(バレーボール)2単位を、(バスケットボール)履修者はスポーツ方法論・実習(バスケットボール)2単位の講義内容説明文を参照のこと。

バレーボールは、学校体育の教材ならびに部活の一つとして重要な役割を果たしている。と同時に社会スポーツ、職場スポーツとしても広く愛好されている。さらにまた、国内・外ともに、ポピュラーな競技スポーツとしても目ざましい進展を遂げている。このようにバレーボールが幅広く活用されてきているのは、総合的な体力を高めながら、ボールコントロール、ボディコントロールなどの能力を高めて、チームプレーに還元するコミュニケーションスポーツの役割をも果たしているからである。

本授業では、理論的な裏づけを基に、基本動作及び技術を確実に身につけると同時に、バレーボールの効果的な指導の手順、方法を修得し、加えてルール、審判をはじめとして試合の運営等について学習する。

〔テキスト〕：大泉書店発行の『バレーボール』を使用する。

方法論Ⅰで習得した基礎的な技術を確認しながら、バレーボールの身体運動上の特質を理解し、さらに、科学的知識を加えて応用技術に結びつける。

ゲーム展開していく上で必要な戦術及び作戦の立て方の研究やVTR、スライドなどの視聴覚を十分に活用して、より高度な練習やゲームへと発展させる。これらが指導の現場において役立てられることを前提で学ぶ。

バスケットボールの技術構造を理解しながら、ゲームに必要な基本技能および技術、応用技術等を確実に修得することを目指す。

この講座では、集団的スキルを中心に展開し、その様相から課題を見付け出すことにより個人的スキルの向上を計り、ゲームに連結させて行く。同時に、理論的な裏付けを基に、将来役立つバスケットボールの効果的な指導法をも身につけるようにする。

理論の実践を中心に実技指導を行うが、学校体育の教材やクラブ活動の一つとして、主要な役割を果たしているバスケットボールの楽しさや教育的価値、歴史・ルール、

ゲームの進め方などについても、ビデオを併用して講義する。

なお、教育実習予定者は3年時までに履修することが望ましい。

スポーツ方法論・実習Ⅱ（バスケットボール） 2単位 伊藤 順 蔵

スポーツ方法論・実習Ⅰ（バスケットボール）で履修した、ゲームに必要な基本動作および技術、応用技術に更に習熟することを目指す。すなわちショット・パス・ドリブル・リバウンド・ディフェンスの基礎技術を修得し、その連契プレーであるチーム・オフenseとチーム・ディフェンスにまで発展して、実習する。その間にチームづくりや、指導法について勉強することにする。

スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ） 2単位 <ラグビー> 日比野 弘
<サッカー> 加藤 久

<ラグビー>履修者はスポーツ方法論・実習（ラグビー）2単位を、<サッカー>履修者はスポーツ方法論・実習（サッカー）2単位の講義内容説明文を参照のこと。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（ラグビー） 2単位 日比野 弘

ラグビーはチームスポーツである。15人のメンバー全員が、ルールと攻防理論を熟知し、自らの役割をまっとうしたときに、勝利の喜びを味わうことができる。

この講座では、ラグビーの専門的知識と、個人の技術水準を高め、あわせて将来役立つ指導法を身につけることを目的とする。

技術の上手、下手にかかわらず、スキルの向上を目指すもの、レフリー、コーチを志望するもの、教員としてラグビー経験を取り入れようとするものなど、ラグビーに関わりを持つ、幅広い層に受講してほしい。

理論の実践を中心に実技指導を行うが、雨天の際には、ラグビーの歴史、戦術論、ルール解説、ゲーム分析など、ビデオを併用して講義する。

（初回はオリエンテーション。筆記用具持参）

スポーツ方法論・実習Ⅰ（サッカー） 2単位 加藤 久

本授業においては、サッカーを行う上で不可欠な技術、戦術、体力の三つの要素を個々に分析し、その内容、能力の高め方、相互の関連性についての理解を深める。また、それをプレーとして表現できるように実技を行っていく。

さらに、サッカーのルールや試合の進め方、歴史と現状、スポーツの中でのサッカーの位置づけ、サッカーの教育的価値などについての講義も合わせて行う。

スポーツ方法論・実習Ⅱ（サッカー） 1単位 加藤 久

方法論Ⅰで実習した技術、戦術をさらに高度なものにするための実習と講義を行う。

具体的には、室内サッカーを実習に取り入れ、狭いスペースと制約された時間の中で展開される現代サッカーの傾向を体験していく。

また、サッカーの体力トレーニングの方法として南米流の体力トレーニングの方法についても実習する。

スポーツ方法論・実習（格技） 2単位

〈柔道〉 小野沢 弘 史

〈剣道〉 安 藤 宏 三

〈柔道〉履修者は、スポーツ方法論・実習（柔道）2単位を、〈剣道〉履修者はスポーツ方法論・実習（剣道）2単位の講義内容説明文を参照のこと。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（柔道） 2単位

小野沢 弘 史

柔術から発展した柔道は、日本民族の生んだ世界に誇るべきスポーツ文化である。現代スポーツとしての柔道の実技ならびに理論を学びながら、柔道の根源を追求してその背景を求める。

スポーツ方法論・実習Ⅱ（柔道） 1単位

小野沢 弘 史

スポーツ方法論・実習Ⅰで履修した技能の向上をさらに図り、能力差や体力差などをふまえ安全に自由練習・試合が出来るようにする。

「投の形」、「講道館護身術」も学びながら、技能レベルとして初段を取得する程度まで高めたい。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（剣道） 2単位

安 藤 宏 三

竹刀を媒体とした打つ、突く、捌く等の対人攻防技能の習得を通して剣道の理解を深める。

男女共に初心者は基礎から導入し、簡易な試合や審判ができるよう指導する。

準備するもの

- ・服装：剣道着、袴またはトレーニングウェア上下（長袖、長ズボン）
- ・テキスト：安藤宏三著『目で見える剣道上達法』（成美堂出版）
- ・その他：手拭、名札、竹刀（カーボン竹刀が望ましい）

スポーツ方法論・実習Ⅱ（剣道） 1単位

安 藤 宏 三

剣道の対人攻防技能のより高度な習得を通して剣道に対する一層の理解を深める。本講座はスポーツ方法論・実習Ⅰ（剣道）を履修した者を対象とする。

準備するもの

- ・服装：剣道着、袴またはトレーニングウェア上下
- ・テキスト：安藤宏三著『目で見える剣道上達法』（成美堂出版）

・その他：手拭、名札、竹刀（カーボンシナイが望ましい）

スポーツ方法論・実習Ⅰ（ダンス） 2単位

山 本 数 子

基礎的な身体の動きからダンスに必要な表現法を体得し、リズム感を養い思想感情を自由に表現出来る身体づくりをし、更に動きと音との関係・構成等を学びながら、ダンス創作法及び各種ダンスを踊ることによって、それぞれのダンスの特性を知り、ダンスに対する視野を広め知識を深める。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（ニュースポーツ）（レクリエーション改め） 2単位

角 田 真一郎

多様化する生活内容、労働時間の短縮、週休2日制の導入、家事労働の軽減による余暇時間の増大、65才以上が総人口の約12%を占める高齢者社会、そんな高齢者社会を見つめ、あらゆる領域、階層で、生活とのかかわりあいの中で、レクリエーション活動はますます重要な位置を占めてくる。

ここではより多くのレクリエーション・スポーツ（ニュースポーツ）を体験し、働く時代から、生活を楽しむ時代に大きくさま変わりしてゆく21世紀に向け、領域や階層において、それぞれにおける生活の中で喜びや、楽しみを得られるかについて追求したい。

必要に応じて、アウト・ドアー・スポーツとしての野外活動も取り上げたい。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（筋力トレーニング） 2単位

窪 田 登

筋力トレーニングは、“Isomerics”と“Isotonics”に大別することができる。本科目では、これらの理論と実技を徹底学習する。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（器械運動） 2単位

塚 脇 伸 作

学校体育における7運動領域の1つである器械運動の理論及び実技を行う。

技能の内容は、自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を高め、技が円滑にできるようにする。

1. マット運動
2. 鉄棒運動
3. 平均台運動
4. 跳び箱運動

なお、体育科では、採点競技である体操競技（男子：6器械種目、女子：4器械種目）を取り扱っているところから、その基本を導入する。

注：服装は、運動着上下、体操用シューズ（裸足でも可）

スポーツ方法論・実習Ⅱ（器械運動） 1単位

塚 脇 伸 作

スポーツ方法論・実習Ⅰ（器械運動）に引き続いて、技能の一層の充実をねらい、次のような運動課題と運動技術に関する理論と実習を行う。

1. 器械種目

- (1) マット運動
- (2) 鉄棒運動
- (3) 跳び箱運動
- (4) 平均台運動
- (5) その他

2. 技能内容

- (1) 個人の技能レベルの確認
- (2) 個人の能力に応じた技（わざ）の習得と習熟
- (3) 体操競技の基礎

注. 服装

運動着上下、体操用シューズ（裸足でも可）

スポーツ方法論・実習Ⅰ（水泳） 2単位

矢 野 正 次

水中運動の一つである水泳は、夏季の限られた期間に屋外で実施される運動種目であった。

今日では、屋内プールの普及によって年間を通して行なえる運動種目になっている。年齢、性別に関係なく、またハンデキャッパーでも、医師等の指示によって実施が可能である。当科目では、各自の水泳能力を高めることは勿論、水泳に対する知識を学び以後の活動に役立てることを期している。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（軟式テニス） 2単位

林 敏 弘

軟式テニスは、軽いゴムボールを使用してダブルスのみで試合を行なうという特性をもったテニスである。

本授業では、基礎技術としてのグラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブスを練習した後、試合を数多く経験してもらう。

試合においては、前衛、後衛のコンビネーションプレーを修得するとともに、ルールの理解を深めてもらう。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（硬式テニス） 2単位

宮 城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり、誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を

問わず、しかも国際性豊かな競技であり、これらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては基礎実技のマスター、ストローク理論、マナー、ルール、審判法、及び戦略理論の修得を目標とする。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（卓球） 2単位

森 武

卓球は、長さ274cmの卓球台に2人あるいは4人のプレーヤーが対峙して、初速が126km/hに及ぶボールを打ち合って勝敗を争う競技である。また、ボールがセルロイド製で質量が小さいため（重量は約2.4g）、ラバーの摩擦により種々のスピン（トップ・バック・サイド）が生じる競技特性がある。すなわち、卓球はきわめて短い時間の中で、スピードとスピンに対応しなければならない競技特性をもっている。

卓球競技で最も重要なポイントは、相手の打球直前までの様々な情報も認知した上で、相手打球のスピード、スピン、打球方向を予測し、打球のための最適な位置と姿勢をとることにある。

本実習では、卓球のゲームを構成する基本的な公式ルールと技術、サービス、レシーブ、フットワーク、審判法等をマスターすることを目標として、生涯を通じてプレー可能な自分流のスタイルを確立してもらう。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（バドミントン） 2単位

関 一 誠

バドミントンを生涯スポーツの中のいち競技として位置付け、学校・社会等の場における技術理論、指導法を体系的に講じる。

また、上記をふまえて、バドミントン遊びから、バドミントン競技に至る技術習得過程や、技術能力、年齢差等の対象に応じた指導実習を行う。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（ソフトボール）（92年度休講） 2単位

吉 村 正

平成4、5、6年から、ソフトボールは、小学校（5、6年）、中学校、高等学校で選択必須になる。これは、サッカーとともに、学校体育の球技の中で最も重要視されている証である。

生涯スポーツとしてのソフトボールも、総理府の調べで分かるように、過去10年間、バレーボールや軟式野球を抜いて、日本1の競技人口を誇っている。

このように、ソフトボールは、学校体育のみならず、社会体育の場でも、広くプレーされているのである。

本授業では、小・中・高ではどのようなソフトボールを、正課体育や課外活動の場で教えるべきか、また、生涯スポーツとしてのソフトボールはどうあるべきかなどを学習する。

〔参考書〕：吉村正著『現代ソフトボールの戦法』全4巻（ベースボール・マガジン社）

スポーツ方法論・実習Ⅰ（スキー） 2単位

佐藤 千春

この授業においては、スキーについて何でも知っているということ、すなわち、知ることと、良く滑れるということを目指したい。しかし、そうは言っても時間には限りがある。従って、いわゆるスキーに関する基礎的な部分を大事にして、その部分から進めることができるところまで、積極的に授業を進めたい。後期9月になってから毎週一コマずつ授業を行い、雪が降ったならば3泊4日の雪上の集中授業を行う。後期併合型の授業ということである。この授業に関しては、掲示によって、いろいろな伝達を行なうから、その点十分に注意するよう望みたい。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（スケート）

伊藤 順蔵

基礎技術として、フォアスケーティング、スカーリング、スネーキング、クロッシング、バックスケーティング、ストップ、ターンの技術を習得する。さらにスピード、アイスホッケー、フィギュアの各競技への導入をはかる。あわせてスケートに関する知識を学ぶことにする。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（レスリング） 2単位

太田 章

本授業は、アマチュアレスリング競技について、特に初心者、女子にもわかりやすくその方法を指導し、フリースタイル及びレコローマンスタイルの理論及び実技を行なう。

スポーツ特論・実習Ⅱ（水泳） 2単位

矢野 正次

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（水泳）の修得者が対象であって、水上安全を中心に発展させていく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ウェイトリフティング） 2単位（旧ウェイトトレーニング）

窪田 登

ウェイトリフティングは、筋力やパワーを強化し、筋を肥大させるトレーニングである。すぐれた筋力やパワーが必要なスポーツ選手にとって、このトレーニングは必須である。

だが、この授業では、ウェイトリフティング競技に焦点を合わせて進めていく。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ウェイトリフティング） 2単位（旧ウェイトトレーニング）

窪田 登

本科目では、すでに「スポーツ特論・実習Ⅰ」で基礎的なウェイトリフティングの競技理論と実技を身につけているが、さらにこれに専門的なアプローチを試みる。

その他、パワーリフティング競技、ボディビルディング、スポーツ選手の補強トレ

ーニングについても、研究を進めていく。また、実技面では、フリー・ウエイトの他にマシンによるトレーニングの実践も深めていきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（体操競技） 2単位

塚 脇 伸 作

学校体育における器械運動の発展である体操競技について次のような内容と理論と実習を行う。

1. 次の各器械種目に関する個人技能の確認
 - (1) 男子…ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒
 - (2) 女子…跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆか
2. 個人技能に応じた技の習得と習熟
3. 演技の発表とその採点

スポーツ特論・実習Ⅱ（体操競技） 2単位

塚 脇 伸 作

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に引き続いて、一層の充実をねらい、次のような理論と実習を行う。

1. より発展した技の習得と習熟
2. 指導法の問題点とその対策
3. 器械・器具の問題点とその対策
4. 審判法の問題点とその対策
5. 競技運営の問題点とその対策
6. その他、競技力向上に関する諸問題とその対策

スポーツ特論・実習Ⅰ（陸上競技） 2単位

佐々木 秀 幸

陸上競技基礎技術の科学的な組み立てを理解し、それを修得して指導法を深めるための実習である。特に、教育実習及び公立学校採用試験に活用できる内容でもある。

1. 陸上競技トラック、フィールドの中心とする種目。
2. 陸上競技のトレーニング法
3. 児童、生徒の発育発達に応じた動きづくり。

スポーツ特論・実習Ⅱ（陸上競技） 2単位

佐々木 秀 幸

現在の自己の競技力の向上を志す者、また、将来、中学校、高等学校の教員や社会でのスポーツ指導者として陸上競技の指導、コーチングにたずさわる者のために、陸上競技の高度の専門技術を実習する。

1. 個別性による競技力の分析
2. ハイレベルのトレーニング法とコーチング法

スポーツ特論・実習Ⅰ（柔道） 2単位

大 沢 慶 己

柔道の技能を高めるとともに、投の形・固の形を修得しトレーニング法、コンディショニングなどの理論を併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（柔道） 2単位

大 沢 慶 己

柔道の技能をより高めるとともに、講道館護身術などの柔道の形を修得し指導法、審判法の理論も併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅰ（剣道） 2単位

安 藤 宏 三

本講座では、将来、学校、地域及び各種の団体における剣道の指導者となることを目指す諸君を対象とする。正しい剣道技能の習得と試合・審判規則に関し理解を深めることをねらいとする。

準備するもの

○剣道用具一式（剣道具、竹刀、剣道着、袴、手拭、名札）

○テキスト：安藤宏三外共著『グラフィック剣道』（大修館書店）

スポーツ特論・実習Ⅱ（剣道） 2単位

安 藤 宏 三

本講座は、「スポーツ特論・実習Ⅰ」（剣道）を履修した者を対象とし、更に高度な技能習得を合わせて、日本剣道形、指導法、審判法、大会の企画や運営の方法等についても学ぶことをねらいとする。

準備するもの

○剣道用具一式（剣道具、竹刀、剣道着、袴、手拭、名札）

○テキスト：安藤宏三外共著『グラフィック剣道』（大修館書店）

スポーツ特論・実習Ⅰ（レスリング） 2単位

太 田 章

本授業は、アマチュアレスリング競技について、FILA（国際アマチュアレスリング連盟）のルールに基づく、フリースタイルと、グレコローマンスタイルの理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（レスリング） 2単位

太 田 章

本授業は、レスリング競技を、その技術論及びその体力論などに細分化し、また減量などによる調整も含めて、応用としての理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ボクシング） 2単位

白 鳥 金 丸

ボクシング本来の有り方を理論と実践で行う。その内訳は、

1. ボクシング概念

2. ボクシング教授法の手順
3. ボクシングの基本動作
4. ボクシング施設, 装具, 器具の取扱いと安全性について
などである。

スポーツ特論・実習Ⅱ (ボクシング) 2単位

白鳥金丸

「スポーツ特論・実習Ⅰ」(ボクシング)を基本に競技ルールの分析, コンディショニング, ボクシング技術, 戦術等を含めた, 年間プログラムの作成等を目的とする。

また, ボクシング競技の科学性を考え, 体力測定, 評価, 実験等も併せて行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ (野球) 2単位

西大立目 永

この授業の目的は, 「ルールあつてのスポーツ」という厳然たるスポーツ成立条件の根源を踏まえて, 野球競技の正しい基礎知識と基本技術習得の手法を多角的に学習することにある。したがって, 野球規則書中の「プレイのルール」の学習にも重点を置き, 規則と技術の接点を探求することをも試みたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ (野球) 2単位

西大立目 永

「スポーツ特論・実習Ⅰ」(野球)で学んだ基礎知識と基本技術を基に, それらを総合的な競技力として, どのように発展させていくのかという学習を行う。

特に, 野球はチームスポーツであるという通常の観念を打破し, 個人技という観点にも立って, 個性尊重の総合競技力を身につける手法を探索しながら実習を重ねてみたい。

さらに, アメリカをはじめとする世界野球界の動向と思想をも論じながら, それらを実習に役立てる方法を模索してみたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ (ソフトボール) (92年度休講) 2単位 吉村 正

ソフトボールは, レクリエーション的に楽しむ方法と競技的に行う方法があることを, プレーしながら理解させる。

また, これに加えて, 全受講生に対して, ファーストピッチ特有の専門的技術であるウィンドミル投法の左打者の反対打ちを習得させる。

ただし, 雨天の場合は, ソフトボールの本質や歴史, あるいは審判法や記録のとり方等を講義する。

〔テキスト〕: 吉村正「ソフトボール教室」(大修館書店)

〔参考書〕: 以村正著「現代スポーツコーチ実践講座15, ソフトボール」(ぎょうせい)

スポーツ特論・実習Ⅱ（ソフトボール）（92年度休講） 2単位 吉 村 正

原則として、全国大会あるいは全国大会に準ずる大会で活躍できる選手を育成する。ただし、選手を志さない学生に対しては、それらの大会で審判員とか記録員といった分野で貢献できる人材を育成する。

合わせて、大衆スポーツの王者であるソフトボールの本質を、スローピッチングやミディアムピッチの規則に則ってプレーしながら体得させる。

〔テキスト〕：吉村正「実践ソフトボール」（大修館書店）

〔参考書〕：吉村正「現代スポーツコーチ実践講座15、ソフトボール」（ぎょうせい）

スポーツ特論・実習Ⅰ（テニス） 2単位 宮 城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしかも国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては中級程度の実技のレベルアップ、ストローク理論、マナー、ルール、審判法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（テニス） 2単位 宮 城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしかも国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては高度な実技の修得と、初心者から中級者までの指導法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（軟式テニス） 2単位 林 敏 弘

軟式テニスにおいて高度の技術水準に達している諸君に、軟式テニスの合理的練習方法、試合での戦法、ルールの正しい理解などについて学習してもらう。また、とかく選手からは軽視されがちな「審判のあり方」についても検討していく。

スポーツ特論・実習Ⅱ（軟式テニス） 2単位 林 敏 弘

スポーツ特論・実習Ⅰ（軟式テニス）の履習者を対象として、さらに高度の諸技能を修得してもらうとともに、将来の指導者として指導方法の学習にとりくんでもらう。また近年国際普及をなしつつある軟式テニスについての広い視野から、あるべきルールの検討を行っていく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球） 2単位

森 武

まず、理論的にも技術的にもできるだけ高度の次元に到達できることを目標とした。

もちろん、目的やレベルによって多角的な指導法をとっていく。たとえば、レクリエーショナルな地域での指導法、学校体育の授業やコーチ・顧問としての指導法、さらには日本代表チームの指導者となる場合なども含めて考えている。その他、ルールと審判法、また大会運営法（公認資格取得を目的としたもの）など現実に役立つものもとりあげたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（卓球） 2単位

森 武

スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球）をまずご参照いただきたい。それら全般的なものの中から、とくに学生諸君の希望（面談の上）する内容を深く学習する授業としたい。たとえば初心者指導を主な目的と考える場合に将来学校クラブの顧問や指導者を目指す～また、日本代表を目指す場合～今後も現役プレーヤーとして続ける～それぞれの目的に合致した内容を組立てていきたい。

なお、近年新たに「ラージボール卓球」が文部省や厚生省の催物に採用されている。この面の学習と併せて共に研究の対象にしたいと考えている。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バドミントン） 2単位

関 一 誠

学校体育・社会体育の場で、初心者を対象とした指導法（導入・展開・応用）を講じ、バドミントン遊びからバドミントン競技まで各段階による実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バドミントン） 2単位

関 一 誠

「特論・実習Ⅰ」を踏まえて、競技バドミントン技能の向上、策戦・戦法のたて方等、競技の特性を生かした方法論・実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バレーボール） 2単位

矢 島 忠 明

競技スポーツとしてのバレーボールと、レクリエーショナルスポーツとしてのバレーボールの違いについて学ぶことを基調として、高いレベルを目標としての個人技能、及び集団技能を習得する。

実技と共に、文献学習やビデオ教材の利点を生かし、戦術・戦法などの研究を行って授業を進める。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バレーボール） 2単位

矢 島 忠 明

競技スポーツの観点からバレーボールを捉え、身体運動に関する科学的知識・情報あるいは、その分析を学び、チームや個人技能に応じた、適切なプログラムを組み立

てて、それを実習する。これをもとにして、バレーボールのコーチングなどに役立つことを前提に授業を行なう。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バスケットボール） 2単位 伊藤 順 蔵

バスケットボールの基礎技術として、ボールハンドリング（パス、ドリブル、ショット、リバウンド）・からだを扱う技術・ディフェンスの技術修得

基礎的プレーとして、1対1の攻防・2対2の攻防・3人の連けいプレーと防御・アウトナンバーの攻防の技術修得と、バスケットボール指導法の研究について学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バスケットボール） 2単位 伊藤 順 蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、チームディフェンスとチームオフェンスの完成を目標とする。実技は、マンツーマンディフェンスとその攻撃法・ゾーンディフェンスとその攻撃法、プレスディフェンスとその攻撃法・速攻とその防御法を修得する。

あわせて、審判法、技術の段階に応じた指導法・スカウティング・作戦計画などについて学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ラグビー） 2単位 日比野 弘

ラグビーの歴史、攻防理論、集団スキル、戦術、ルールなどを専門的に研究する。

各人の競技者として、又は指導者としての力を向上させることを目的とする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ラグビー） 2単位 日比野 弘

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターした上、ラグビーのコーチング、レフリング・トレーニングなどの知識を更に深く研究する。スポーツ指導者として社会に貢献できる人材の養成を目的とする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（サッカー） 2単位 加藤 久

技術・戦術・体力というサッカーに不可欠な三つの要素のうち、特に技術に関しての解説と実習を行なう。

運動学習理論をふまえながら、サッカーの技術が、どのような一般性と特殊性を持つものであるかを明らかにし、ゲームを通じてその技術の体得を目指す。

また、サッカーの歴史と現状、サッカーのルールやゲームの進め方についても言及する。

スポーツ特論・実習Ⅱ（サッカー） 2単位

加 藤 久

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の理解のともに、サッカーの技術と戦術のつながり、技術を個人戦術・グループ戦術・チーム戦術にどう生かしていくかを解説・実習する。

また、サッカーの体力とはどういうものか、体力トレーニングの方法にはどのようなものがあるかについても論じる。

最後に、総説としてサッカーのコーチングのあり方、指導者の役割について言及する。

スポーツ特論・実習Ⅰ（スキー） 2単位

佐 藤 千 春

スキー技術、およびスキー技術に関するいろいろな運動、運動感覚、筋肉感覚、心理的なことまで、科学的に研究することが、この特論の主目的である。しかし、スキー技術と言っても、余りにも幅広い内容をもつ。そこで、とりあえず、基礎的なものをよく絞り込んでこの特論の内容としたい。もう少し具体的に言うならば、全日本スキー連盟の提唱している基礎スキー部門、そして、準指導員検定において、そのライセンスをクリアーすることなど、興味深いテーマになり得るものと考えている。教職を希望するものに対しても、有効なテーマであると思う。雪のない季節には、スキー技術に対するトレーニング理論とその実習、および指導についての考え方、指導法などについて、授業のなかに組み込んで考えていきたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スキー） 2単位

佐 藤 千 春

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に解説したように、スキー技術、およびスキーに関するいろいろな運動を、スポーツ科学という領域において研究することを目的として、この特論・実習Ⅱの授業を進めていきたい。そのためには、いろいろの創意工夫をしていかなければならないだろう。視野を広くもって考えていきたい。「特論・実習Ⅰ、Ⅱ」ともに、それぞれ分立したものではなく、もとより一つのものを便宜的に二つに分けて実習するに過ぎない。このことも明記しておきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（スケート） 2単位

伊 藤 順 蔵

基礎技術として、フォアスケエティング、スカーリング、スネーキング、クロッシング、バックスケエティング、ストップ・ターンをマスターするとともに、スピードスケエティング、アイスホッケー、フィギュアの各競技種目の初歩の技術修得あわせて、スケートの歴史、スケートの手入れ法などスケートの知識を学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スケート） 2単位

伊 藤 順 蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、スピードスケエティング、アイスホッケー、フィギュアの各競技種目の技術研修に励むとともに、バッジテ

ストなどに挑戦する。

あわせて、競技の見方、カリキュラムなどの指導計画のたて方、指導法・評価法などを学ぶ。

ス ポ ー ツ 史 2単位

寒 川 恒 夫

スポーツの起源から今日に至る発展史を、未開社会、古代、中世、近世、現代、にわけて講義する。テキストには、寒川恒夫（編著）『図説スポーツ史』（1991年朝倉書店）を使用する。

コーチング論 2単位

(A) 塚 脇 伸 作

(B) 日比野 弘

スポーツにおけるコーチングの基礎理論とその応用について、Aでは個人的スポーツを、Bでは集団的スポーツを対象にして、具体例をあげながら解説する。

主に次のような内容を取りあげる予定である。

1. コーチングシステム
2. 体力と技術の相互関係
3. 指導者に必要な観察力
4. トレーニング計画とトレーニング管理
5. 勝敗を決定する要因
6. その他、競技力向上のためのコーチングの諸問題

測 定 評 価 論 4単位（旧体育測定法・演習）

上 田 雅 夫 村 岡 功

永 田 晟 鈴 木 秀 次

前 田 勝 也 中 村 好 男

現代において、運動・スポーツを指導する者に要求されることは、科学的に裏付けられた指導法であり、またそのためにも、指導者は様々な問題点を客観的に測定評価することが不可欠となろう。

そこでここでは、スポーツ科学を担う者が具備すべき基本的な測定法とその評価法について、実際のデータをもとにしながら検討を加えることとする。

それゆえ、本講座では少人数による班分けを行い、班ごとにそれぞれ専門分野の異なる6人の担当者をローテーションすることとなろう。

実際の内容としては、スポーツ心理学、体力学、スポーツ生理学、動作分析、バイオメカニクス等の分野において日常的になされている測定法の習得と、それを評価するために必要とされる基本的な統計法の概説とからなっている。なお、それぞれの詳細については、担当者がその都度指示する。

武 道 概 論 2単位

志々田 文 明

今日、武道という言葉は、一般に柔道や剣道など日本古来の運動文化ないしは運動技術を表わす総合名称として用いられているが、このような用法は明治時代の末以降のことである。江戸時代には武道は武士道ないし士道と同意語に使われていた。この講義では、武道を考察する際の原点としてそれらの用法の変遷をふまえつつ武道の精神性（倫理道德的あるいは求道的）及び技術性などの文化的特色をみていく。それらの特色から、現代行なわれている武道を考え、今後のあり方を考えていきたい。

（教科書：富木謙治『武道論』，大修館書店，参考書：宮本武蔵『五輪書』，岩波文庫）

ダンス概論 2単位

山 本 数 子

舞踊の歴史を通して技術と表現。形式と内容及び構造。舞踊と音楽との関連，各種ダンスについての知識を深める。

教科書は使用しません。

原書講読演習A 4単位

加 藤 清 忠

本演習では、Rebent Roaf の「Posture」（姿勢）という文献を読みながら，ロコモーションとかヒトの基本姿勢，更にはわれわれのスポーツ活動や日常生活のいろいろな姿勢の問題に対して理解を深めていきたい。

テキストに関しては授業中に指示する。

原書講読演習B 4単位

中 村 好 男

この演習では，運動と健康の関わりについての理解を深めるために，体力医学的観点から著述された英文の原書を輪読する。

テキストは，専門的な論文集ではなく，一般・指導者向きの著作のなかから選ばれるものの，本演習を修得するためには，運動生理学あるいはスポーツ医学の専門分野に関する理解や専門用語の知識が必須である。そのためには，輪読するテキストの他にも，各自で適切な参考書（授業中に適宜指示する）を利用することが必要になるであろう。

専門教育科目 (各学科共通 選択)

哲学的人間学Ⅰ 2単位

北 村 実

「人間」は生物の一種であるが、しかし他の生物とは質的に異なる特質を持っている。「(自然) 人類学」が動物学の一分科として人間を研究していくのに対して、それだけではとらえきれない「人間」の特質を総合的に考察していくのが「哲学的人間学」である。講義では、広い視点から「人間」を見つめ直し、「人間」とは何か、という古くて新しい問への私なりの答えを出してみたい。

哲学的人間学Ⅱ 2単位

北 村 実

人間と他の動物との決定的な違いの一つは、行為を選択できるか否かにある。選択の自由、意志の自由について、代表的な見解を概観し、人間としての自覚を深めるよすがとしたい。

言語・記号論 2単位

遠 藤 弘

言語に関する、あるいは記号一般に関する学際的な研究は今日ますます盛んになりつつある。それというのも、「人間は記号である。」と解することの可能性が一層現実的なものとなってきているからである。本講は哲学的な視座から記号現象一般の人間的な意味を解明するとともに、とりわけ言語の本質に探りを入れることを目的とする。

民族文化論 2単位

吉 村 作 治

20世紀末から21世紀にかけて世界は民族を中心に動くと予想される。民族という概念は難しい部分が多々あるが、言語、習慣など今日の私たちの世界観をつくる上で重要である。この講座では民族を文化の面から考えてみようというもので、特に食文化を中心に考察していくつもりだ。食文化は環境が大変重要であり、又文化の交流によって古代の食習慣が全く変化してしまう場合もある。そして宗教もその影響を大きくしているのは、タブーという形式を見ても明らかである。それらを総合的に検証する為、VTRやスライドなど映像を利用しながら進めていく予定。

認知理論 2単位

西 本 武 彦

認知については、心理学の極めてコンテンポラリーな分野として近年注目を浴びている。ともすると抽象的で難解と思われがちであるが、本講ではできるだけ具体的実

例や簡単な実験をまじえ、知覚・学習・記憶・思考・言語といった各分野を統一的に説明する枠組みとしての認知的アプローチの今日的意義を紹介していきたい。テキストについては講義の中で指示する。出席厳守。

人 格 心 理 学 2単位

富 田 正 利

人格(Personality)とは人間を個人として総合的に捉える概念であり、気質、性格、知能といった個人のすべての特性を包括する概念である。その研究は近代心理学の成立の遙か以前から関心を持たれてきたし、現代に於ても心理学の究極の目標として追求する研究者も多い。本講ではそうした研究の歴史を振り返り、近代心理学における人格研究の多様な展開の跡をたどり、現代における諸理論を概観して、人格研究のあり方を探りたい。

教育心理学 I 2単位

佐々木 正 人

「こども」、「社会」といった教育の場を構成している諸要素の有機的な結びつきとして教育を捉え直してみたい。こどもの社会史、記号論、認識の発達理論、教育の認知人類学などの成果から、教えること、学ぶことの本来の姿について議論したい。「アクティブ・マインド」(東大出版会)を教科書に指定する。

運 動 心 理 学 2単位

児 玉 昌 久

新しい運動を覚えたり、すでに覚えている運動の技術を高めようとする時、多くの要因がある原則に従って作用しあう。それら種々の要因や法則のうち心理学的な問題を取りあげて解明し応用してゆくのが運動心理学の目的である。運動技術獲得のメカニズムや法則性、技術向上を促進したり妨害する心理的要因や動機の問題、獲得した技術の十分な発揮を授けたり妨げたりするメンタル諸問題についての基礎的な面を述べる。

社 会 心 理 学 2単位

斉 藤 勇

社会心理学の基礎的知識と基本的考え方について、講義する。講義内容は次の通りであるが、社会心理学の実験的アプローチを中心に紹介していく。

- 社会的認知
- 社会的態度
- 社会的欲求
- 社会的行動
- グループ・ダイナミックス

保健社会学 2単位

佐久間 淳

まず現代社会における生活の特徴にふれ、それらと健康、疾病（成人病など）との関係を説明する。ついで日本の医療社会史から、医療サービスの特徴にふれる。一方、日本人の健康や疾病に対する意識や行動について文化人類学、行動科学、統計的手法を用いた保健・医療社会学の解析・把握法を説明する。

内容は、健康増進、疾病に対する個人、集団の機能など専門的なものであるが、具体的に身近な問題をわかりやすく講義するので、受講者は新たな視界を広まるであろう。

たとえば、歩行量と成人病との関係、東京都と大阪府の傷病や死因別死亡率、平均寿命の差の原因などに切りこむ。また、地域別自殺率とその社会的背景、死因や死亡率の地域比較分析など、自分の置かれている社会的状況への新しい視点からの分析法を習得したい。

〔テキスト〕：佐久間淳著『医療社会学概説』（大修館）1988および新著1992

人間工学 I 2単位

石田 敏郎

人間工学の基本的な考え方と、人間工学を理解するために必要な基礎的事実について、具体的な実験例をもとに概説する。

また、人間工学は学際的な学問であり、最近の進歩も著しいので、そうした話題にもふれる。

脳神経科学 2単位

小室 輝昌

脳神経科学概論

- ① 興奮の伝導および伝達と神経細胞の構造
- ② 神経細胞レベル、中枢レベルにおける情報処理の構造的基礎

の概説を行う。

〔参考書〕：

Principle of Neural Science, Kandel and Schwartz, Elsevier Co.
From Neuron to Brain, Kuffler and Nicholls, Sinauer Co.

精神医学 I 2単位

濱田 秀伯

狂気の歴史をたどることは、人間の歴史をたどることにほかならない。本講義では過去から現代に至る精神医学の流れを概観し、人間が心の病とどのようにかかわってきたのかを述べる。特に精神障害の理解に不可欠な用語の解説、症候学、分類学に重点をおきながら、今日知られている精神疾患の原因、治療、医療上の諸問題などにふれ、精神医学全般にわたって偏りのない視点を提供することを目的としている。本講座は主に第2、3学年を対象とする。

精神医学 II 2単位

濱田 秀 伯

本講座では、変質論、大脳局在論、精神分析学、現象学、器質力動論など精神にかかわる考え方、理論の流れを概観する。特に19世紀ヨーロッパに始まる近代精神医学が、機械・還元論的な自然科学の思潮に対抗し、人間を不可分な全体としてとらえる見地から発展した過程を、生物学、心理学、社会学、哲学などとの関連において論じる。本講座は精神医学 I に続くものであり、受講者は精神障害の一応の知識を有することが望ましい。

精神衛生概論 2単位

兄 玉 昌 久

精神衛生 (mental hygiene, mental health) とは、精神的健康の維持・向上および精神的不健康の改善・予防に関する科学である。人間が精神的に真に健康であるためには、身体的にも社会的にも、そして精神医学的にも健康であることが必要で、それ故、精神衛生とは、種々の医学関連諸科学のみでなく、心理学、社会諸科学等に立脚する総合科学として捉えるべきものである。

講義では精神医学や心身医学よりも、科学的な心理学に基づく行動医学的立場をとり、精神症状や精神身体症状を示す人と、そのような症状を示さない人との差異を、ストレス・トレランスを構成する価値観、態度などの人格的諸要因や対処法と対応させて考察し、発症のメカニズムや予防策について考えてみる。

精神身体医学 I 2単位

河 野 友 信

精神身体医学は心身相関の生理と病理を解明し、その成果を臨床と疾病予防、健康増進などに活用することを目的にした学問である。物心二分論に根ざして進展した西洋近代医学の延長線上に構築された現代医学は、限り無く細分化の道を辿っている。そこでは細胞臓器や疾病が対象とされ、人間不在の医学・医療となっている。その反省から、現代心身医学は、bio-psycho-socio-eco-ethical model を掲げ、人間の total health と幸福・安寧を追求することを目的として掲げている。

人体は約60兆の細胞より構成され、細胞は集合して臓器・器官・組織となり、脳によりホメオスタシス・ネットワークのもとに全体として調和的に機能するように仕組まれている。身体-脳-精神という一体の存在として、個と全体の調和のもとに内外の環境に適応しながら生活し生存しているのが、人間である。講義では、心身相関の生理と病理、ストレスとストレス性疾患などについて、特に臨床的側面を中心に取り上げる。

栄 養 学 I 2単位

太 田 富貴雄

体格も良く、健やかで体力にも恵まれた活動的な一生を送ることは、多くの人の願いであろう。身体を造る材料を提供し、生命維持に不可欠な生理作用の調整を行い、

活動のためのエネルギーを供給するのが食物である。栄養学は食物と発育・健康・疾病との関係を究め、健康増進に役立つ食生活の指針をつくることを目的としている。本講義では、人間が必要とする食物成分（栄養素）の種類と生理的役割、至適摂取量、各種食品の栄養的特徴など栄養学の基本的事項について述べる。また、体力増強や健康水準の向上を図るための食生活のあり方についても言及する。なお、栄養学の応用実践面については、栄養学IIで詳しく紹介する。

スポーツ医学Ⅰ 2単位

福 林 徹

スポーツ障害、外傷の中でも外科的疾患を中心に部位別・競技別に実例を提出しながら紹介し、その救急処置・治療法について述べる。またスポーツの安全対策・障害予防という面から、スポーツ復帰にあたっての運動処方や、テーピングの方法、物理療法について言及したい。

スポーツ医学Ⅱ 2単位

福 林 徹

スポーツ医学Ⅰに続き、スポーツ障害の中でも循環器系を中心とした内科的疾患を中心に、その治療と予防法について解説する。また最近注目をあびているメディカルチェックの方法とその意義、さらには食事療法、栄養指導、ドーピングと薬物療法などについても言及し、実例を提示しながらその具体的方法について述べる。

救 急 医 学 Ⅰ 2単位 (旧救急処置法)

安 達 正 夫

我々が社会生活を営むうえで、他人に救急処置を実施しなければならない機会は少なからずあると考える。

そのような緊急時に、我々がまず実行しなければならない救急処置の実際を、基礎編と応用編に別けて講義をおこなう。

救急医療(I)では、人の呼吸・循環動態といった生理学的知識から始まり、様々な障害や疾病の原因、病態生理、臨床症状といった点まで講義をおこなう。

救 急 医 学 Ⅱ 2単位 (旧看護法)

安 達 正 夫

ここでは、救急医療(I)で講義した基礎的な知識をもとにして、救急処置法の実際的なやり方を講義する。熱中症、心疾患、呼吸器疾患といった内科的におこりうる疾病はもとより、様々な外傷に対する救急処置の方法を具体的に講義する。

さらに、わが国における救急医療の実態も紹介する。

画 像 医 学 Ⅰ 2単位 (旧物療医学)

秋 貞 雅 祥

「百聞は一見に如かず」とか「視之而弗見（之を視れども見えず）」とか、感覚（sensation）、知覚（perception）や認知（cognition）などに関するいくつかの表現

がある。いま、古くからあるこれらの事実が新しい科学の光に照らし出されようとしている。

認識に必要なギリギリのビット数は触覚で 10^2 b/秒、聴覚で 10^4 b/秒であるが、視覚には 10^9 b/秒が必要である。すなわち視覚に必要なビット数は最も大であり、そのため高度の医用画像情報が得られるまでにはずいぶん時間がかかったが、ひとたび突破口ができ、実用に供せられるとその影響はきわめて大で、現在の画像診断の時代を迎えるにいたった。「からだの中をのぞき見る」と云う、当時の医学にとってきわめて大きな発見（inventionではなくてdiscovery）がレントゲン博士によって行なわれたのが1895年であるが、以来連続的、ならびに非連続的方法論の進歩により現在の画像医学の繁栄がもたらされた。この講義の目的は、専門的知識ではなく画像診断の概略を述べることで人間の体の仕組みを知ってもらいたいと考えている。

画像医学Ⅱ 2単位

秋 貞 雅 祥

以下の各項目は画像医学ⅠおよびⅡに適宜配分される。

1 診断学総論

X線像に影響する物理的因子

各種X線装置および撮影法

血管造影 インタベンショナルラジオロジー

CT, OR, CR,

2 超音波診断総論

3 磁気共鳴診断総論 (MRI, MRS)

4 核医学診断総論

5 放射線の利害得失

6 各臓器の画像診断

7 画像診断の未来

8 その他

運動処方論 2単位

永 田 晟

トレーニングと運動処方の違いを明確にして、それらの基礎的な生理科学と資料を提示する。そして人間改造の可能性を探り、健康と体力の保持増進の道標や指標を具体化する。そのやり方を現場のフィットネスクラブを見学しながら実習する。

運動処方上、必須な①運動内容（種類） ②運動頻度 ③運動強度の理論を教示し、個人のレベルに対応した個別的な処方箋作りの方法論を展開する。特に、一般人の健康体力のための処方が組み立てられ、“健康・体力相談士”や“健康運動指導上”、“運動プログラマー”としての能力が得られるように詳講し配慮する。別に各事業所の健康・体力相談室を体験入学する予定である。

〔教科書〕：『健康・体力づくりハンドブック』（大修館）

コミュニティ・スポーツ論 2単位（旧地域体育論）

濱 野 吉 生

地域社会における体育・スポーツの進め方，その法的根拠，歴史と現状などについて，諸外国の例も交えながら述べていくが，なおその他にスポーツそのものについても，かなりのウェイトを置いて言及する予定である。

参考書等については，授業中に指示する。

職 場 体 育 論 2単位

前 田 勝 也

職場体育といっても，一般にはあまり聞きなれない言葉かもしれない。総括的に考えれば，レクリエーションということになるだろうが，ここでは，仕事を持つ人々の職場における状況を，人間に加わる負担という形でとらえ，それらからの人間への影響，さらにその影響に対応する意味でのレクリエーションの問題について考察を進める。

寄附講座開設について

早稲田大学では、教育研究の質的向上・発展に寄与することを目的として学術研究提携等を行っています。

その際、大学の主体性と独自性を堅持するため、次の「ガイドライン」を制定しています。

1. 学問の自由および独立を守ること。
2. 世界の平和および人類の福祉に貢献する研究を行うものとし、軍事研究および軍事開発は行わないこと。
3. 本大学における研究活動の発展および教育の向上に寄与すること。
4. 研究成果の公表を禁止された秘密研究は行わないこと。ただし、研究成果の公表時期に関する研究委託者または共同研究者との信頼関係に基づく合理的制約は、この限りでない。
5. 社会的に公正であること。
6. 関連資料を開示の上、民主的な手続きに基づき、提携等に関する意思決定を行うこと。

また、このガイドラインを正しく運用していくため、大学は、「学術研究提携等審査委員会」を設置して、個々の提携等を審査しています。

以下の寄附講座は、このような学術研究提携等の一環として上記の審査を経て設置されたものです。

(注) 早稲田大学規約集の「学外機関等との学術研究提携等に関する規則」および「学外機関等との学術研究提携等の承認手続等に関する規程」(掲載頁332の1～5)を参照

1992年度 寄 附 講 座

全学部共通設置（商学部幹事）

グローバリゼーションと日本企業（財団法人経済広報センター寄附講座）

1985年9月のG 5 プラザ合意以降の円高を契機として、日本企業の経営グローバル化は本格的な段階を迎えた。そしていまや、戦後この方一貫して推進してきた輸出を中心とした国際ビジネス活動を大きく戦略的にシフトさせつつある。

このような大きな転換期にあって、日本の主要な産業・企業がどのような戦略的対応を展開しようとしているのか、またそれらは欧米企業とどのような点で相違するのかを、具体的に国際ビジネスへのコミットメントに積極的な産業の代表として（1）鉄鋼、（2）自動車、（3）家電、（4）建設を選び、別紙の諸課題ならびに各産業特殊的事情についてそれぞれ5回ずつ講義を行う。

講義は、前期2産業、後期2産業に分け、またそれぞれ講師は各産業のトップクラスの企業の管理者が当たる。

また、前期、後期それぞれに、商学部専任教員がコーディネーターを務めて、総論ならびに全体の総括部分の講義を担当する。

成績評価のための試験では、各講師からそれぞれ1問ずつ出題され、採点はコーディネーターが行う。

講義日 毎週火曜日 4限

注：講師、講義日程ならびに講義内容の詳細は別紙参照

人間科学部設置

分子神経生物学 8単位（ベックマン寄附講座）

川 名 明 夫

工 藤 佳 久

井 上 宏 子

これまでの神経生物学の主なテーマは、神経細胞の形態と生理機能の関係を追求することであった。しかしながら最近の分子生物学の進歩に伴い、神経の発生・生長・機能発達の諸問題を遺伝子のレベルで解明出来るようになった。

そこで本講義では、先ず分子生物学、及び神経生物学の基礎について講義を行い、次いで、新しい学問である分子神経生物学の構築を試みる。また講義内容を理解させるために、実習を行う。

以下のような諸項目に重点を置く。

- (1) 脳・神経の発生
- (2) 脳・神経の機能分子
- (3) 脳・神経の発生と機能を制御する遺伝子
- (4) 脳に特異的に発現する遺伝子

東洋医学の人間科学 4単位（井深 大寄附講座）

石 野 尚 吾

中 村 昭 元

町 好 雄

湯 浅 泰 雄

春 木 豊

西洋医学はその基礎になる科学思想について長い歴史をもち、その上に立って基礎研究及び臨床実践においてめざましい成果を上げてきた。しかし、一方でその限界と、害もささやかれるようになってきた。この問題に対処するものとして、東洋医学に対して東洋のみならず西洋においても関心が高まってきた。

東洋医学の概念はまだ定かでない。したがって、さまざまなものを内包しているが、本講座では、なるべく広範囲に東洋医学に関する基礎知識を学習できるように構成してゆく。基本的には、思想、心理、生理、医学を軸にして、それぞれの分野の専門家に出演していただく。また東洋医学は自らの実践ぬきには考えられないので、実技も含める。また、講師も国内にとどまらず、諸外国の専門家も予定している。また、随時、特別講義も開催する。なお、本年は上記の講師に出演していただく。

役付教職員一覧

学 部 長	相 馬 一 郎
教 務 主 任 (教務担当)	濱 野 吉 生
教 務 主 任 (学生担当)	木 村 一 郎
教 務 副 主 任 (教務担当)	坂 野 雄 二
教 務 副 主 任 (学生担当)	宮 内 孝 知
人間基礎科学科主任	春 木 豊
人間健康科学科主任	野 呂 影 勇
スポーツ科学科主任	上 田 雅 夫
事 務 長	杉 浦 一 義
図 書 課 長	碓 水 喜 信

1992年度 クラス担任者一覧

第 1 学 年

クラス	担 任 者	クラス	担 任 者
1	重 原 淳 郎	11	門 前 進
2	堀 田 郷 弘	12	野 嶋 栄 一 郎
3	池 岡 義 孝	13	宮 崎 正 己
4	春 木 豊	14	梅 澤 宣 雄
5	矢 野 敬 生	15	太 田 富 貴 雄
6	鈴 木 晶 夫	16	児 玉 昌 久
7	吉 村 作 治	17	鈴 木 秀 次
8	菅 野 純	18	町 田 和 彦
9	店 田 廣 文	19	村 岡 功
10	佐 古 順 彦	20	中 村 好 男

第 2 学 年

クラス	担 任 者	クラス	担 任 者
1	矢 野 敬 生	14	村 岡 功
2	青 柳 肇	15	寒 川 恒 夫
3	吉 岡 亨	16	宮 内 孝 知
4	佐 古 順 彦	17	町 田 和 彦
5	野 嶋 栄 一 郎	18	比 企 静 雄
6	店 田 廣 文	19	梅 澤 宣 雄
7	谷 川 章 雄	20	濱 野 吉 生
8	門 前 進	21	鈴 木 秀 次
9	菅 野 純	22	太 田 富 貴 雄
10	石 田 敏 郎	23	塚 越 伸 作
11	宮 崎 正 己	24	永 田 晟
12	児 玉 昌 久	25	加 藤 清 忠
13	山 崎 勝 男		

第 3 学 年

クラス	担 任 者	クラス	担 任 者
1	嵯峨座晴夫	22	坂野雄二
2	柿崎京一	23	宮崎正己
3	池岡義孝	24	相馬一郎
4	木村一郎	25	佐古順彦
5	飯野徹雄	26	菅野純
6	佐々木正人	27	木村利人
7	根建金男	28	児玉昌久
8	鈴木晶夫	29	山崎勝男
9	青柳肇	30	村岡功
10	小室輝昌	31	寒川恒夫
11	谷川章雄	32	宮内孝知
12	岡野静二	33	町田和彦
13	門前進	34	比企静雄
14	吉村正	35	梅澤宣雄
15	山本多喜司	36	濱野吉生
16	店田廣文	37	鈴木秀次
17	石田敏郎	38	太田富貴雄
18	野呂影男	39	塚脇伸作
19	黒田勲	40	永田晟
20	小泉英二	41	加藤清忠
21	野嶋栄一郎		

第 4 学 年

卒業論文指導教員がクラス担任にあたる。

教 員 一 覧

専任教員（五十音順）

氏 名	主な担当科目
青 柳 肇	動機づけ理論
浅 井 邦 二	心理学的測定法及び実習
安 藤 宏 三	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（剣道）
井 上 宏 子	演習Ⅰ，寄附講座
飯 野 徹 雄	遺伝学及び実習
池 岡 義 孝	家族社会学及び実習
石 田 敏 郎	情報処理（コンピュータ基礎・実習）
伊 藤 順 蔵	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（バスケットボール）
上 田 雅 夫	スポーツ心理学
臼 井 恒 夫	都市社会学及び実習
梅 澤 宣 雄	スポーツ経営学Ⅰ，Ⅱ
小野沢 弘 史	スポーツ方法論・実習Ⅰ，Ⅱ（柔道）
大 島 康 行	生態系科学
大 澤 慶 己	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（柔道）
太 田 章	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（レスリング）
太 田 富貴雄	栄養学Ⅰ，Ⅱ
岡 野 静 二	福祉援助論
柿 崎 京 一	地域社会学及び実習
葛 西 順 一	測定評価論
加 藤 清 忠	身体形態学（解剖学を含む）
加 藤 久	スポーツ方法論・実習Ⅰ（サッカー）
神 崎 巖	独語
菅 野 純	学校カウンセリング
木 村 一 郎	細胞学及び実習

木村利人	バイオエシックス（自然・生命・人間の秩序）
窪田登	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（ウエイトリフティング）
蔵持不三也	比較文化論
黒田勲	人間行動と環境（医）Ⅰ，Ⅱ
小泉英二	演習Ⅰ（学校カウンセリング）
児玉昌久	運動心理学
小室輝昌	脳神経科学及び実習，バイオエシックス
三枝幸夫	英語
坂野雄二	行動療法Ⅰ，Ⅱ
嵯峨座晴夫	社会変動論
佐古順彦	環境心理学Ⅱ
佐々木秀幸	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（陸上競技）
佐々木正人	認知発達理論
佐藤千春	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（スキー）
重原淳郎	独語
志々田文明	武道概論
白鳥金丸	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（ボクシング）
鈴木秀次	運動制御論
鈴木晶夫	非言語行動論
関一誠	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（バドミントン）
寒川恒夫	スポーツ文化論
相馬一郎	環境論
田中純蔵	英語
店田廣文	社会開発論
谷川章雄	日本文化史
塚脇伸作	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（体操競技）
角田真一郎	スポーツ方法論・実習Ⅰ（ニュースポーツ）
中村桂子	生命科学論
中村好男	測定評価論，原書講読演習，教養演習
中村茂	スポーツ方法論・実習Ⅰ（体操）
永田晟	バイオメカニクス

西大立目 永
根 建 金 男
野 嶋 栄一郎
野 呂 影 勇
濱 口 晴 彦
濱 野 吉 生
林 敏 弘
春 木 豊
比 企 静 雄
日比野 弘
船 戸 徳 郎
堀 田 郷 弘
前 田 勝 也
町 田 和 彦
宮 内 孝 知
宮 城 淳
宮 崎 正 己
村 岡 功
森 武
門 前 進
矢 島 忠 明
矢 野 敬 生
矢 野 正 次
山 内 兄 人
山 崎 勝 男
山 本 多喜司
吉 岡 亨
吉 村 作 治
吉 村 正
ロバート・グレイ

スポーツ特論・実習 I, II (野球)
認知行動理論
教育心理学 II
人間工学 II
社会学理論史
スポーツ法学
スポーツ特論・実習 I, II (軟式テニス)
行動学
リハビリテーション
スポーツ特論・実習 I, II (ラグビー)
スポーツ特論・実習 (体操競技)
仏語
職場体育論
公衆衛生学
スポーツ社会学
スポーツ特論・実習 I, II (テニス)
運動・保健概論
運動生理学
スポーツ特論・実習 I, II (卓球)
心理療法 I, II
スポーツ方法論・実習 I, II (バレーボール)
社会集団論
スポーツ特論・実習 I, II (水泳)
比較形態学
精神生理学及び実習
演習 II (発達と環境)
生理学及び実習
比較文明論
レクリエーション論
英語

兼 担 教 員 (五十音順)

氏 名	本属箇所	担当科目
池 原 義 郎	理 工 学 部	スポーツ工学 I
岩 本 憲 児	文 学 部	映像論
遠 藤 弘	文 学 部	言語・記号論
岡 崎 由 美	文 学 部	中国語 I
長 田 攻 一	文 学 部	余暇論, 社会構造論
大 平 章	法 学 部	英語 II
柄 澤 昭 秀	人 研	特論 II
北 村 実	文 学 部	哲学の人間学 I・II, 社会意識論
古 賀 勝次郎	社会科学部	経済学
近 藤 庄 一	教 育 学 部	基礎数学
櫻 井 英 博	教 育 学 部	化学
佐 藤 巖	教 育 学 部	独語 II
新 保 昇 一	文 学 部	英語 I
千 葉 明 夫	理 工 学 部	物理学
手 塚 耕 哉	法 学 部	独語 I
富 田 正 利	文 学 部	心理検査法 I・II, 人格心理学
中 村 采 女	理 工 学 部	独語 I
西 本 武 彦	文 学 部	認知理論
野 村 圭 介	商 学 部	仏語 I・II
丸 本 隆	法 学 部	独語 II
和 田 修 一	文 学 部	社会意識論

非常勤教員 (五十音順)

氏 名	担当科目
相 原 隆 夫	独語
青 木 清	バイオエシックス, 比較行動学
秋 貞 雅 祥	画像医学 I・II
秋 本 エリカ	独語 I・II
安 達 正 夫	救急医学 I・II

安 藤 喜 久 雄
 安 中 隆 徳
 石 野 尚 吾
 五 三 健
 今 橋 盛 勝
 岩 田 貴
 内 嶋 善兵衛
 内 山 精 也
 大 池 美智子
 大 崎 博
 大 橋 憲 広
 近 江 源太郎
 岡 山 茂
 金 山 英二郎
 川 名 明 夫
 河 野 友 信
 加 茂 功
 木 内 徹
 菊 地 弘
 北 田 よ志子
 工 藤 佳 久
 久保木 茂 人
 小 出 二 郎
 児 玉 幹 夫
 斉 藤 勇
 佐 伯 敏 郎
 坂 口 早 苗
 佐久間 淳
 澤 井 芳 江
 ジャニック・
 マーニュ

人間関係論Ⅰ，産業・職業社会学
 宗教学
 東洋医学の人間科学（寄附講座）
 スポーツ方法論・実習Ⅰ（バスケットボール）
 教育法
 露語Ⅰ・Ⅱ
 環境論（総合講座）
 中国語Ⅰ・Ⅱ
 音楽理論・実習
 倫理学
 人間の諸問題
 環境論（総合講座）
 仏語Ⅱ
 仏語Ⅰ・Ⅱ
 分子神経生物学（寄附講座）
 精神身体医学Ⅰ
 特論Ⅰ
 英語Ⅰ・Ⅱ
 文学
 スペイン語Ⅰ・Ⅱ
 分子神経生物学（寄附講座）
 露語Ⅰ
 英語Ⅰ・Ⅱ
 社会福祉論Ⅰ
 人間関係論Ⅱ，社会心理学
 生態学及び実習
 学校保健Ⅰ・Ⅱ
 保健社会学
 スペイン語Ⅰ
 仏語Ⅱ

スティーブン・
マーチン

杉 本 正 俊

高 橋 鷹 志

高 橋 行 徳

竹 山 博 英

樽 井 武

太 原 孝 英

寺 尾 剛

チャールズ・
A・フリー

中 条 一 雄

中 村 昭 元

中 村 昌 子

ナンシー・
パーシャル

野 池 恵 子

乗 越 皓 司

服 部 明 彦

濱 田 秀 伯

林 幹 夫

伴 一 憲

ハंक・ロバーツ

半 田 貴 士

深 川 長 郎

福 林 徹

フィリップ・
ヴァネ

保 志 宏

牧 幸 一

前 田 豊

町 好 雄

松 本 芳 之

麦 倉 哲

英語 I

独語 II

環境論 (総合講座)

独語 I

ヨーロッパ文化概論

英語 II

仏語 I・II

中国語 I

英語 I

スポーツ情報論

東洋医学の人間科学 (寄附講座)

独語 I・II

英語 I

仏語 I

自然人類学

環境論 (総合講座)

精神医学 I・II

教育学

哲学

英語 I

精神身体医学 II

スポーツ行政論

スポーツ医学 I・II

仏語 II

人類学 (自然)

独語 I・II

英語 I・II

東洋医学の人間科学 (寄附講座)

組織心理学

社会福祉論 II・社会病理学

矢 崎 正 夫

矢 島 毅

山 本 数 子

湯 浅 泰 雄

世 取 山 洋 介

英語 I・II

英語 II

スポーツ方法論・実習 I (ダンス), ダンス概論

東洋医学の人間科学 (寄附講座)

法学

建 物 ・ 号 館 案 内

100 号 館	8 階	研究室（一般教育・外国語・助手）
	7 階	研究室（スポーツ科学科）
	6 階	研究室（人間健康科学科） 人間総合研究センター所長室 実験室（人間健康科学科・人間総合研究センター） 会議室
	5 階	研究室（人間基礎科学科・スポーツ科学科・助手） 会議室 実験室（人間基礎科学科・人間健康科学科・スポーツ科学科） 学生実験室 面接室 観察室 暗室 測定機室
	4 階	学部事務所 学部長室 教務主任・服主任室 会議室 所沢図書館・事務室 保健室 教職員食堂 研究室（スポーツ科学科） 実験室（スポーツ科学科） 学生実習室
	3 階	演習室 埋蔵文化財展示室・整理室 学生ラウンジ 学生共同利用室 コピー室 学生食堂 売店 情科センター分室事務室 端末室 労務室・清掃室
	2 階	60人教室 350人教室 700人教室 演習室 視聴覚教室 LL教室
	1 階	60人教室 140人教室 200人教室 学生ラウンジ エレベーター
		守衛室

早稲田大学所沢構内案内図



